

柏の葉キャンパス「公民学連携による自律した都市経営」

参考資料 一覧

参考資料 1 : 国立大学法人東京大学フューチャーセンター パンフレット

参考資料 2 : 国立大学法人東京大学高齢社会総合研究機構 概要

参考資料 3 : 柏の葉スマートシティ 事業計画パンフレット

参考資料 4 : 柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK] パンフレット

参考資料 5 : 柏の葉国際キャンパスタウン構想 概要版

参考資料 6 : TX アントレプレナーパートナーズ [TEP] パンフレット

参考資料 7 : 一般社団法人フューチャーデザインセンター [FDC] パンフレット

University of Tokyo Future Center

東大フューチャーセンター

高齢化や低炭素化など、私たちを取り囲む環境の課題は複雑化しています。
それらの最適な解決策を得るには、
産公官学が連携した技術や制度の創出と社会実験が不可欠です。
東京大学フューチャーセンターは、東京大学が持つ多様な研究資産を活用し、
周辺の公設機関と協力して、民間企業との共同研究・開発を効率的に進めます。
また、東大全学の組織や地域との連携により、社会実験をサポートします。
さらに、社会実験手法を体系化し、新しい環境問題を解決する人材を育てます。

TX柏の葉キャンパス駅前に社会実験拠点[東京大学フューチャーセンター]誕生。

UTFC 東京大学フューチャーセンター

Eサイエンス研究

- ◇ 超高齢・低炭素化
- ◇ 社会実験データの蓄積と活用
- ◇ 相乗効果の創出



共通課題の解決

- [産公学連携] [新産業創出]
- ◇ 個人情報管理 ◇ 住民参加
- ◇ 法規制の調査・許認可
- ◇ 既存業界の反発 ◇ 効果の測定



教育・体系化

- ◇ 社会実験手法の体系化
- ◇ 高齢化・低炭素化ノウハウの体系化
- ◇ 社会連携による人材育成
(教育・学位取得)



Introducing UTFC

教育研究拠点を機能別に再配置する東京大学「三極構造構想」。

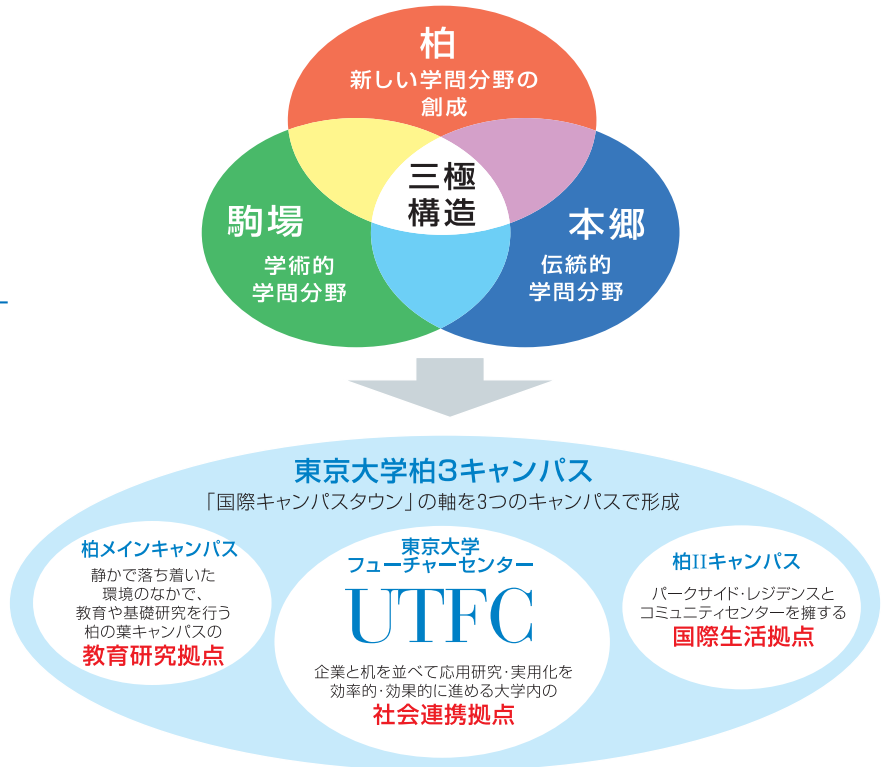
東京大学は、現在「三極構造構想」のもと、リーディング・ユニバーシティにふさわしい設備と豊かな学修・研究環境を備えたキャンパス実現のための整備を推進。特に、柏キャンパスでは、世界トップクラスの研究施設の整備、並びに外国人研究者・留学生のための宿舍の整備、さらに地域と連携した生活支援体制の構築などキャンパスの国際化推進のための環境づくりを進めています。

次世代環境都市の創造をめざす「柏キャンパス」。

産・公・学の連携によって「環境・健康・創造・交流の街をつくる」という「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の目標のもと、現在「柏キャンパス」では、次世代環境都市の創造を目指して、「参加型のまちづくり」「実証実験」「拠点づくり」などの取り組みが進められています。こうした街のダイナミズムを企業の成長力にできること。これこそ、「柏キャンパス」が備えるアドバンテージです。

東京大学「三極構造構想」

将来へ向けた大学のアカデミックプランをキャンパス面に投影した、大学の基幹構造を示したキャンパス計画



広大な緑のなかに都市機能の集積が進む柏キャンパス



現地空撮に147・148街区の完成予想CGを合成

Research & Development Field

次世代交通などの社会実験プロジェクトが進行中です。

東京大学が展開する多岐にわたる研究開発領域。

そのなかでも特に「次世代交通」の研究開発領域では、多様な技術の研究開発が進行しています。

UTFCは、これらの研究の社会実験拠点として誕生します。

共同研究パートナーには、社会実験をはじめとするこうした研究開発を東京大学と共同で行う環境を提供。

事業化への最短距離を東大とともに進む新しい研究開発の形をご提案します。

次世代交通

柏キャンパスでは、東京大学を中心に次世代交通システムの社会実験が展開されています。2009年には、柏市が内閣府から全国4番目の「ITS実証実験モデル都市」に選定され、今後柏の葉キャンパス地区において、自動車交通・公共交通・パーソナルモビリティを連携させ、CO₂排出量と消費エネルギーの削減をめざす取り組みや、安全・安心な次世代モビリティの可能性の検討・検証のための各種事業が展開される予定となっています。

- 3種の移動手段の最適ミックスから持続可能な移動交通を模索する「ITS実証実験」
- ニーズにタイムリーに応えることで低炭素化をめざす「オンデマンド交通サービス支援システム」
- 高齢者の安心・安全な移動をサポートするニューテクノロジー「移動体センシング」

※【ITSとは】Intelligent Transport System（高度道路交通システム）。渋滞、事故、大気汚染、高齢者利用など、道路交通が抱える諸問題を、最先端の情報通信や制御技術によって解決し、安全・快適で環境にやさしい交通システムの構築を進めるため、各国が国家レベルのプロジェクトとして取り組んでおり、日本でも国土交通省、総務省、経済産業省、警察庁などが連携して研究開発を推進しています。



参考写真

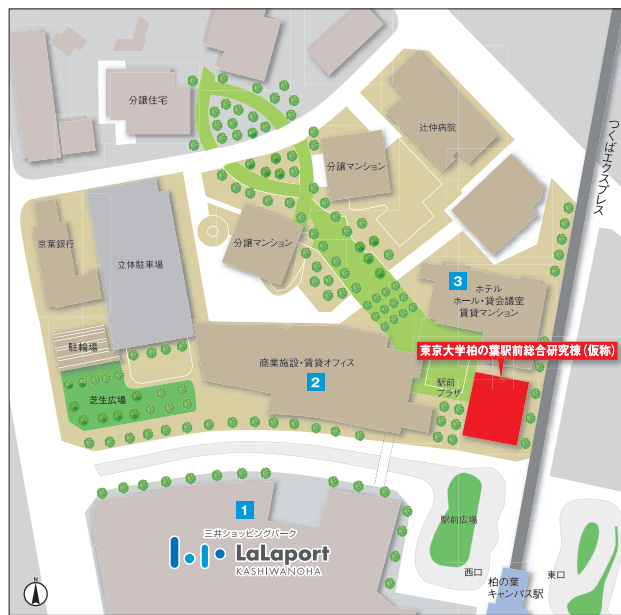
電気自動車の研究開発

電気モーターの高速トルク発生を生かし、電気自動車ですべて可能になる新しい制御の実績を目指しています。タイヤの増粘着制御や四輪独立駆動によって、高性能な車体姿勢制御を実現しています。インホイールモーター4個を用いた高性能車、キャパシタを用いた高速充電車を製作しています。



参考写真

駅徒歩1分。2013年度に「柏の葉駅前総合研究棟（仮称）」がオープン予定。さらに、駅前には多彩な施設が計画中です。



1 ららぽーと柏の葉 [2006年オープン]

食品スーパーから、飲食からフィットネスクラブ、映画館や大型書店までを網羅。30店舗を数える飲食店からブランドショップまで約170※の店舗群。
※2011年9月現在



2 商業施設・オフィス [2014年春オープン(予定)]

- 商業施設(1~3階) 3,880坪
- オフィス(4~6階) 3,150坪
- 構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造、地上7階、地下1階

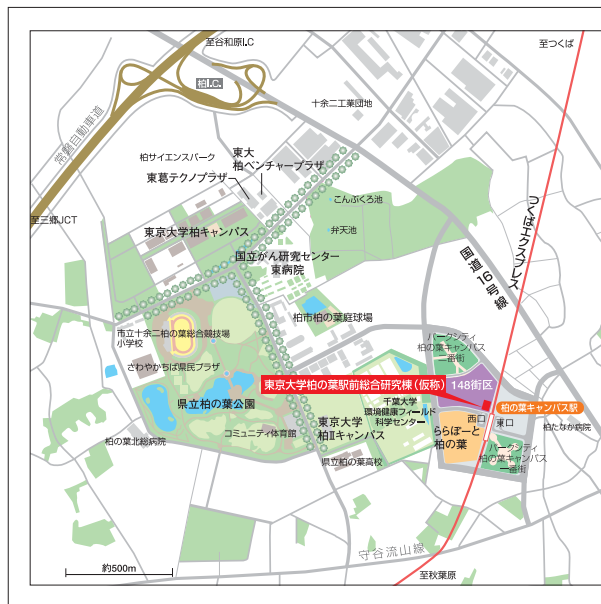


3 ホテル・ホール・貸会議室・賃貸マンション [2014年春オープン(予定)]

- ホール、カンファレンスルーム、温泉大浴場、ラウンジ等(1~3階)
- ホテル(3~6階) 137室
- 中期滞在ホテル(7階) 29室
- 中期賃貸マンション(8階) 29戸
- 賃貸マンション(9~14階) 114戸
- 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上14階、地下1階



※参考写真



世界に知られるIT都市「秋葉原」と首都圏有数の学術・研究都市「つくば」の結節点、それが次世代環境都市「柏の葉」。



- 「秋葉原」駅へ27分
- 「東京」駅へ30分
- 「つくば」駅へ18分
- 「本郷三丁目」駅へ35分
- 「根津」駅へ24分

※秋葉原方面は「流山おおたかの森」駅にて快速乗換え。
※所要時間には、乗換え時間は含まれません。



[機構の紹介](#)[機構長からの挨拶](#)[組織図](#)[ロゴの紹介](#)[パブリシティ](#)[メンバーリスト](#)[アクセス](#)[書籍](#)[■ 機構長からの挨拶](#)

東京大学高齢社会総合研究機構は、「ジェロントロジー寄附研究部門※1」の3年間の活動を踏まえ、平成21年4月より、東京大学の恒常組織として、総長室総括委員会の下に設置されました。

現在、日本は平均寿命82歳の世界最長寿国です。2015年には人口の4人に1人が65歳以上となり、しかも80歳以上の後期高齢者が著しく増加するという、かつてどの国も経験しなかった超高齢社会を迎えます。

人口高齢化の影響は医療・福祉領域にとどまらず、経済・産業・文化の広い領域で相互に関連する複雑な課題を提起しています。例えば、労働に従事しない依存人口比率の上昇や認知症・虚弱高齢者の介護など深刻な問題が顕在化している一方、高齢者を社会資源と捉え新しい雇用や産業の誕生に対する期待も高まっています。こうした課題を解決するためには個人の長寿化と社会の高齢化に応じた新たな価値観の創造と社会システムの抜本的見直しが必要で、科学の貢献が期待されています。

超高齢社会の広範で複雑な課題を解決するためには、医学、看護学、理学、工学、法学、経済学、社会学、心理学、倫理学、教育学などを包括する新しい学問体系を築くことが必要です。そのような総合的学問体系であるジェロントロジーは、高齢社会の諸課題解決に先導的な役割を担う使命をもっています。

本機構では、高齢社会の諸課題に有効にかつ柔軟に取り組めるよう学際的なチームでプロジェクトが組めるようになっています。世界最長寿国であるがゆえに他の国々に先駆けて顕在化している高齢社会の重要課題に対して全学的な知を結集して取り組み、いまだ形成期にあるジェロントロジー学を推進すると共に、エビデンス・ベースの政策・施策提言を行っていくことを目指しています。また、ジェロントロジーという俯瞰的視野から問題解決を志向する次世代研究者の養成を行うと同時に、大学外にも広く門戸を開き、他大学、民間の研究機関、企業、行政、地域で活動しておいでの方々と意見交換し共に活動したいと考えております。社会の高齢化はグローバルな現象であり、最長寿国である日本の取り組みに世界が注目しています。国内の課題に取り組むと共に、国際的にも積極的にネットワークを築いて、グローバルな研究・教育活動を展開していく所存です。皆さまのご支援、ご意見、ご提案、忌憚のないご批判をお願い申し上げます。

※1 平成18年4月に、総長室総括プロジェクト機構の活動の一つとして、日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社の3社からの寄附金により設置。平成21年3月まで3年間活動を行った。

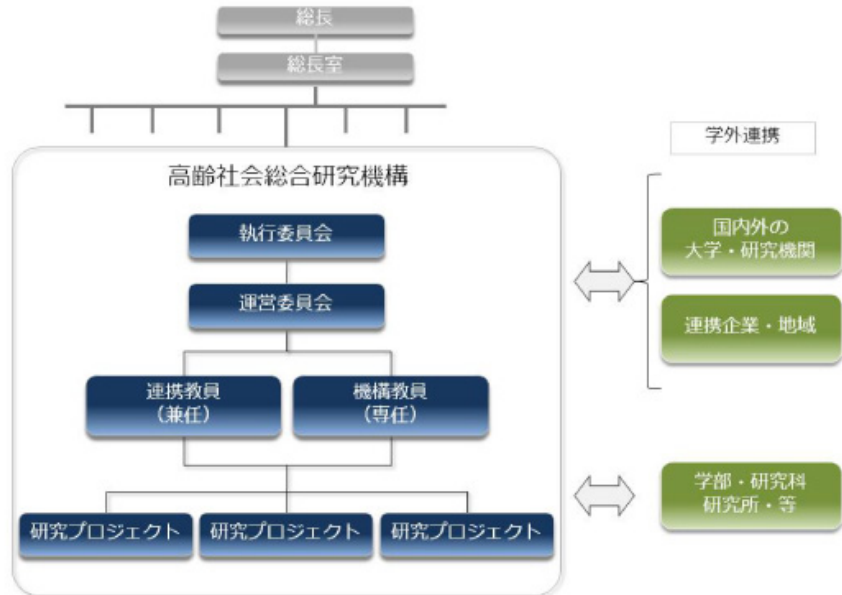


機構の紹介

- [機構長からの挨拶](#)
- [組織図](#)
- [ロゴの紹介](#)
- [パブリシティ](#)
- [メンバーリスト](#)
- [アクセス](#)
- [書籍](#)

■ 組織図

機構の組織体制



研究活動

- と [研究活動紹介](#)
- と [柏市豊四季台地域 高齢社会研究会](#)
- と [人と人、人と社会のつながり創生のための生涯学習プロジェクト「柏くるる」](#)
- と [後期高齢者のQOLとコミュニティの質](#)
- と [食の心理社会的機能に関する研究](#)
- と [各種実施事業](#)

■ 研究活動紹介

高齢社会総合研究機構では、研究プロジェクトの共通テーマとして、「Aging in Place: 住み慣れた地域で、自分らしく老いることのできる地域づくり」を掲げています。このテーマのもと、学際的な研究チームを構成し、基礎研究の知見と技術の革新を生かし、実際の地域社会をフィールドに、1. 課題の特定化、2. 課題解決研究プロジェクトの立ち上げ、3. 社会における実践、をすすめる、「社会実験型・課題解決型」の研究プロジェクトを中心に進めています。

★画像をクリックすると拡大された図が表示されます。



現在、千葉県柏市、福井県、の2つの地域で自治体と連携し、いくつかの研究プロジェクトが進行しています。詳しい研究内容や研究成果につきましては、各プロジェクト名をクリックしてください。

- [柏市豊四季台地域 高齢社会研究会](#)
- [人と人、人と社会のつながり創生のための生涯学習プロジェクト「柏くるる」](#)
- [後期高齢者のQOLとコミュニティの質](#)
- [食の心理社会的機能に関する研究](#)
- [中高年の就業ポテンシャル研究](#)
- [各種実施事業](#)

- [アニュアルレポート\(年度毎の研究活動報告\)のダウンロード。](#)
- ◇ [2009年\(6.37MB\)](#)



社会連携

- と [産学コンソーシアム](#)
- と [産学ネットワーク](#)

■ [産学コンソーシアム「ジェロントロジー」](#)

[産学連携本部](#)

20世紀後半に平均寿命の30年延長という驚異的な寿命革命を達成して世界最長寿国となった日本は、今後20年で75歳以上の「後期高齢者」の倍増（1000万人増）という急速な高齢化に世界に先駆けて直面します。人口が若い世代の多いピラミッド型の時代につくられた現在の社会システムや生活環境はそうした超高齢社会のニーズには対応できません。新たなニーズは新たな産業を創出します。長寿社会の生活とニーズの正確で複眼的な理解に基づいて課題を割り出し、安心して活力ある長寿社会の実現に向けた学際科学の確立と具体的な産学官連携活動を企画しイノベーションの創出を目指すコンソーシアムを設立しています。参加されている企業の業界は多岐に渡り、活発な議論を行っています。

計画（2009年4月1日～2011年3月31日）

1年目／全員参加のワークショップでジェロントロジーの広い分野を概観。

[2010年3月17日開催 報告会資料\(ZIP\)](#)

2年目／参加者をいくつかの領域（ワーキンググループ、WG）に分け、領域別に先端知識、技術、ニーズの探求。想定されるWGとして「住宅と街」、「健康と栄養」、「高齢者の安心・安全」、「モビリティ」、「看護・介護」、「医療保険」等があります。その他産業界のご提案を受けます。

[2011年5月26日開催 報告会資料\(ZIP\)](#)

（上記報告会資料には、エグゼクティブサマリー、各分野のロードマップ、社会保障・シナリオPTの議論結果が含まれます。）

3年目／共同研究創出



38社（外国企業5社を含む）が参加した会場の様子

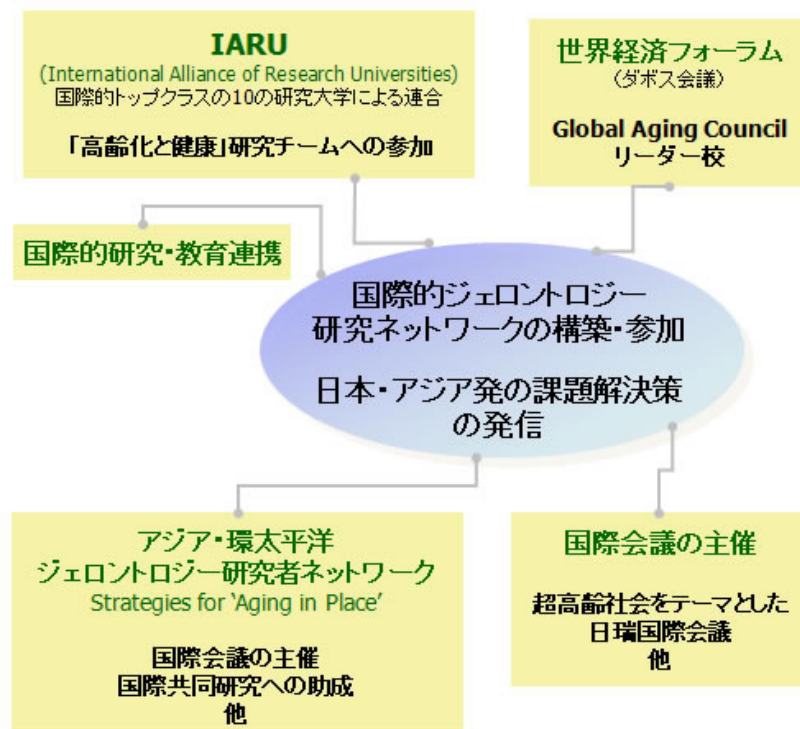


国際連携

国際連携活動の紹介

■ 国際連携活動の紹介

「Global Aging」と呼ばれるように、人口高齢化は世界で進行している現象のひとつです。特にアジアの高齢化は急速かつ大規模で、その社会にもたらすインパクトははかり知れません。高齢社会総合研究機構では、東京大学が参加する大学連合、世界経済フォーラムのメンバーとして世界の高齢化問題を積極的にリードするとともに、積極的に人材交流と知的交流をはかり、国際会議やワークショップを主催、企画し、日本・アジア発の課題解決策を世界に発信していきます。



機構の紹介

- ↳ [機構長からの挨拶](#)
- ↳ [組織図](#)
- ↳ [ロゴの紹介](#)
- ↳ [パブリシティ](#)
- ↳ [メンバーリスト](#)
- ↳ [アクセス](#)
- ↳ [書籍](#)

■ **メンバーリスト**

(2010年6月10日現在)

- ・[機構専任教員・スタッフ](#) ・[運営委員\(兼任教員\)](#)
- ・[運営委員以外のメンバー\(兼任教員\)](#) ・[客員研究員・協力研究員](#)

機構専任教員・スタッフ

氏名	所属部局	役職
鎌田 実 KAMATA, Minoru	高齢社会総合研究機構	機構長・執行委員 教授
辻 哲夫 TSUJI, Tetsuo	高齢社会総合研究機構	執行委員 教授
秋山 弘子 AKIYAMA, Hiroko	高齢社会総合研究機構	執行委員 特任教授
西永 正典 NISHINAGA, Masanori	高齢社会総合研究機構	特任准教授
菅原 育子 SUGAWARA, Ikuko	高齢社会総合研究機構	特任助教
伊福部 達 IFUKUBE, Toru	高齢社会総合研究機構	特任研究員
廣瀬 雄一 HIROSE, Yuichi	高齢社会総合研究機構 (大和ハウス工業(株)より出向)	特任研究員
後藤 純 GOTO, Jun	高齢社会総合研究機構	特任研究員
瀬沼 智洋 SENUMA, Tomohiro	高齢社会総合研究機構 (独立法人都市再生機構からの出向)	特任研究員
矢富 直美 YATOMI, Naomi	高齢社会総合研究機構	特任研究員
井堀 幹夫 IHORI, Mikio	高齢社会総合研究機構	特任研究員
吉江 悟 YOSHIE, Satoru	高齢社会総合研究機構	特任研究員
笈田 幹弘 OIDA, Mikihiro	高齢社会総合研究機構 (株)LIXILからの出向)	特任研究員
木村 清一 KIMURA, Seiichi	高齢社会総合研究機構	学術支援職員
宮原 章子 MIYAHARA, Akiko	高齢社会総合研究機構	事務補佐員
戸張 尚子 TOBARI, Naoko	高齢社会総合研究機構	事務補佐員

山川 敏枝 YAMAKAWA, Toshie	高齢社会総合研究機構	事務補佐員
関野 友子 SEKINO, Yuko	高齢社会総合研究機構	事務補佐員
入澤 啓子 IRISAWA, Keiko	高齢社会総合研究機構	事務補佐員
中林 晴子 NAKABAYASHI, Haruko	高齢社会総合研究機構	事務補佐員

運営委員(兼任教員)(順不同)

氏名	所属部局、専攻等	役職
大内 尉義 OUCHI, Yasuyoshi	医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 加齢医学講座	機構執行委員長 教授
樋口 範雄 HIGUCHI, Norio	法学政治学研究科 総合法政専攻	教授
甲斐 一郎 KAI, Ichiro	医学系研究科 公共健康医学専攻 健康学習・教育学分野	教授
村嶋 幸代 MURASHIMA, Sachiyo	医学系研究科 健康科学・看護学専攻 地域看護学分野	教授
秋下 雅弘 AKISHITA, Masahiro	医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 加齢医学講座	准教授
大方 潤一郎 OKATA, Junichiro	工学系研究科 都市工学専攻	教授
大月 敏雄 OTSUKI, Toshio	工学系研究科 建築学専攻	准教授
佐久間 一郎 Sakuma, Ichiro	工学系研究科 精密機械工学専攻	教授
廣瀬 通孝 HIROSE, Michitaka	情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻	教授
清水 哲郎 SHIMIZU, Tetsuo	人文社会系研究科 上廣死生学講座	教授
白波瀬 佐和子 SHIRAHASE, Sawako	人文社会系研究科 社会文化研究専攻 社会学専門分野	教授
武川 正吾 TAKEGAWA, Shogo	人文社会系研究科 社会文化研究専攻 社会学専門分野	教授
岩本 康志 WAMOTO, Yasushi	経済学研究科 現代経済専攻	教授
牧野 篤 MAKINO, Atsushi	教育学研究科 生涯学習基盤経営コース	教授
阿部 啓子 ABE, Keiko	農学生命科学研究科 応用生命科学専攻	教授
荒井 良雄 ARAI, Yoshio	総合文化研究科 広域科学専攻 広域システム科学系	教授
飛原 英治 HIHARA, Eiji	新領域創成科学研究科 人間環境学専攻	教授
稲葉 寿 INABA, Hisashi	数理科学研究科 数理科学専攻	准教授

森田 朗 MORITA, Akira	政策ビジョン研究センター 公共政策学連携研究部 公共 政策学専攻	教授
-----------------------	--	----



運営委員以外のメンバー(兼任教員)(順不同)

氏名	所属部局、専攻等	役職
岩村 正彦	法学政治学研究科 社会法政策講座	教授
河上 正二	法学政治学研究科 民事法講座	教授
神作 裕之	法学政治学研究科 企業法講座	教授
江頭 正人	医学系研究科 加齢医学講座	講師
飯島 勝矢	医学系研究科 加齢医学講座	講師
小川 純人	医学系研究科 加齢医学講座	講師
中村 耕三	医学系研究科 感覚・運動機能医学講座	教授
芳賀 信彦	医学系研究科 感覚・運動機能医学講座	教授
本間 之夫	医学系研究科 泌尿器外科学講座	教授
真田 弘美	医学系研究科 老年看護学分野	教授
永田 智子	医学系研究科 地域看護学分野	講師
田口 敦子	医学系研究科 地域看護学分野	助教
岩佐 一	医学系研究科 健康学習・教育学分野	講師
斎藤 民	医学系研究科 健康学習・教育学分野	助教
佐々木 敏	医学系研究科 社会予防疫学分野	教授
橋本 英樹	医学系研究科 臨床疫学・経済学分野	教授
山口 潔	医学部付属病院 地域医療連携部	助教
宮田 裕章	医学系研究科 医療品質評価学講座	准教授
西出 和彦	工学系研究科 建築学専攻	教授
岡本 和彦	工学系研究科 建築学専攻	助教
羽藤 英二	工学系研究科 都市工学専攻	准教授
大森 宣暁	工学系研究科 都市工学専攻	講師
小竹 元基	工学系研究科 機械工学専攻	講師
二瓶 美里	工学系研究科 機械工学専攻	助教
新井 民夫	工学系研究科 精密機械工学専攻	教授
梅田 智広	工学系研究科 精密機械工学専攻	特任助教

中村 仁彦	情報理工系研究科 知能機械情報学専攻	教授
谷川 智洋	情報理工系研究科 知能機械情報学専攻	講師
西村 邦裕	情報理工系研究科 知能機械情報学専攻	助教
上野 千鶴子	人文社会系研究科 社会学専門分野	教授
唐沢 かおり	人文社会系研究科 社会心理学専門分野	准教授
会田 薫子	人文社会系研究科 GCOEプログラム「死生学の展開と組織化」	特任研究員
市村 英彦	経済学研究科・公共政策学連携研究部	教授
長谷川 寿一	総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系	教授
武藤 芳照	教育学研究科 身体教育学コース	教授
小林 寛道	新領域創成科学研究科 生涯スポーツ健康科学研究センター	特任教授
福崎 千穂	新領域創成科学研究科 生涯スポーツ健康科学研究センター・人間環境学専攻	特任准教授
坂村 健	情報学環	教授
大石 久和	情報学環	特任教授
児玉 安司	公共政策学連携研究部	特任教授
大沢 眞理	社会科学研究所 比較現代社会部門	教授
酒井 康行	生産技術研究所 物質・環境系研究部門	教授
加藤 信介	生産技術研究所 人間・社会系研究部門	教授
中邑 賢龍	先端科学技術研究センター	教授
福島 智	先端科学技術研究センター バリアフリー	教授
遠藤 薫	先端科学技術研究センター 都市保全システム	特任教授
田中 敏明	先端科学技術研究センター 人間情報工学	特任教授
浅間 一	人工物工学研究センター サービス工学研究部門	教授
大武 美保子	人工物工学研究センター サービス工学研究部門	准教授
坂田 一郎	政策ビジョン研究センター	教授
秋山 昌範	政策ビジョン研究センター	教授
跡見 順子	アイソトープ総合センター	特任研究員

客員研究員・協力研究員

氏名	本務先等	役職
客員研究員		
前田 展弘	(株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部門	研究員
石田 進	(株)LIXIL	
山本 拓真	(株)カナミックネットワーク	
野村 知子	桜美林大学	教授
後藤 眞	横浜桐蔭大学	教授
John C. Campbell	米 ミシガン大学	名誉教授
広瀬 信義	慶応義塾大学	講師
山本 格	新潟大学	教授
西村 宏子	米 テネシー大学	教授
村山 洋史	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 研究所	研究員
増田 宏子	セコム医療システム株式会社	研究員
協力研究員		
阿部 崇	(株)ニッセイ基礎研究所	研究員



機構の紹介

- [機構長からの挨拶](#)
- [組織図](#)
- [ロゴの紹介](#)
- [パブリシティ](#)
- [メンバーリスト](#)
- [アクセス](#)
- [書籍](#)

■ ロゴの紹介

機構の英語名 (Institute of Gerontology) の頭文字「IOG」をモチーフにしたロゴを、ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザインで日本の第一人者である、中川聡氏 (トライポッド・デザイン株式会社代表、東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻デザインイノベーション社会連携講座 特任教授) に作成していただきました。

このデザインには、「100」「時間・人生・経験」「GoodのG」という、たくさんの思いが詰まっており、「高齢社会、そして長寿を尊び豊かなものになりたい」という、機構の理念が反映されています。



Design concept-①

「100」という数は、時に「満」を意味し、ひとつの到達値として用いられます。年齢における「100」年という歳月は、さらなる特別な価値を生むものです。「100歳まで元気でいたい」「100歳になっても楽しく暮らしたい」「100歳をきっかけに何かを始める」「100年の経験で見えてくる事もある」100歳とは私たちにとって、ひとつの「目標」であり、「夢」であり人生の大きな「道標」でもあるのです。

100

Design concept-②

「人生は時の旅人」
「G」は刻み続ける時の振り子を象徴し、100までの時の流れ、そして100から新たに始まる時間、一刻一刻を表現しています。



「IOG」と100歳が重ねて見えるデザインであり、100歳に見る「人生における夢としての道標」をヴィジュアルイズ(可視化)したイメージを訴求しました。

100 + GOOD DAY

Design concept-③

「100歳までの素敵な人生」
そして「100歳からの幸せな時間」
100歳まで、100歳から
<Good Day! >をいつまでも。



機構の紹介

- [機構長からの挨拶](#)
- [組織図](#)
- [ロゴの紹介](#)
- [パブリシティ](#)
- [メンバーリスト](#)
- [アクセス](#)
- [書籍](#)

■ アクセス

東京大学高齢社会総合研究機構 事務室(本郷キャンパス内)
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部8号館701
03-5841-1662(TEL/FAX)

info at iog.u-tokyo.ac.jp (atを@にかえてください)

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp>

[本郷キャンパスへのアクセス](#)
[キャンパス内の地図](#)

事務室(柏の葉キャンパス内)
〒277-8589 千葉県柏市柏の葉5-1-5 第2総合研究棟110
TEL:04-7136-6676 FAX:04-7136-6677

[柏の葉キャンパスへのアクセス](#)
[キャンパス内の地図](#)

バスでお越しになる場合、「国立がん研究センター」が最寄りのバス停です。
※なお、「東大前」停留所がありますが、第2総合研究棟は「国立がん研究センター」、「柏の葉公園北」の方が近いのでご注意ください。



「柏の葉スマートシティ」プロジェクト参加企業 (50音順)

参考資料 3



JX日延石油エネルギー



TSUNEISHI HOLDINGS



HITACHI
Inspire the Next



→ 未来都市プラットフォームセンター



三井不動産



三井ホーム



株式会社 山武



「世界の未来像」をつくる街。

柏の葉スマートシティ

三井不動産株式会社
東京都中央区日本橋室町2-1-1
www.mitsufudosan.co.jp

スマートシティ企画株式会社
東京都港区虎ノ門4-3-1城山トラスタワー17F
www.smartcity-planning.co.jp

KASHIWA NO HA

環境やエネルギー問題に対応した、安心、安全、サスティナブルな街を目指して、世界最先端の知と技術で課題解決型の街づくりを目指す「柏の葉スマートシティ」。

人と街と地球環境がやさしく調和する、サスティナブルな未来のために、いま始まる新しい街づくり、「柏の葉スマートシティ」。

グローバル化する環境問題やエネルギー問題をはじめ、さまざまな課題がいま都市において顕在化しています。人と街と、それらととりまく環境が、ナチュラルに共存するために、「柏の葉スマートシティ」では、自治体、企業、学術機関や研究機関が連携し、ハードとソフトの両面から立体的な街づくりを推進します。単なる街ではなく、人の生活を育む地球の一部として。世代を超えた持続可能な未来が、この街から始まります。

「公・民・学」が連携した課題解決型の街づくり。

先進の知と技術を結集した、ジャパン・オリジナルのスマートシティを、柏の葉から、全国へ、そして世界へ、発信していきます。

現在柏の葉には、東京大学や千葉大学をはじめとした数多くの学術・研究機関が集まり、現代社会を取り巻くさまざまな課題の解決に取り組んでいます。さらに、環境関連のテクノロジーやノウハウで世界屈指の技術を有する企業が集まり、先進的な知見と技術を融合。既存のスマートシティにはない、日本発の新たなスマートシティの実現に向け、リアルな街づくりを進めています。

世界最先端の知の集積

環境関連のリーディング企業の結集

世界のデファクトスタンダードになる、新たなスマートシティモデルの構築へ。

自然をつなぎ、技術をつなぎ、人をつなぐ。

スマートシティの新たな取り組みが、柏の葉から始まります。

「柏の葉スマートシティ」が目指す街は、省エネ住宅や省エネビルの集合体ではありません。まず、土地固有の自然環境を地域資源として活かした環境共生型の都市づくりを実施。この都市基盤の上に、エネルギーの「創エネ・省エネ・蓄エネ」、次世代交通システム、資源循環システムなどの整備を実施し、ネットワーク化や最適制御を行います。さらに、この街に集う全ての人々のサスティナブルな暮らしをサポートするために、環境問題への多彩なアプローチや生活提案、災害対応等を視野に入れた地域コミュニティの創出にも同時に取り組みます。

柏の葉スマートシティ = 環境共生 × テクノロジー × コミュニティ

Five Action for the KASHIWA NO HA Smart City

環境共生

環境共生型都市設計

- 自然環境共生型の都市計画がもたらす、自然との身近な距離感
- 屋上緑化・壁面緑化の推進による、美観とやすらぎ
(ららぽーと柏の葉、パークシティ柏の葉キャンパス一番街・二番街等)
- 調整池の親水ネットワークの構築による、潤いのある景観美
- ピオトープによる生物多様性への配慮と生き物との共存感(パークシティ柏の葉キャンパス二番街)
- 街と街を緑で結ぶグリーンアクセスの構築
- 都市農業の地産地消を体験する農業体験施設オークビレッジ、屋上農園(ららぽーと柏の葉)
- 新たな都市農業の可能性を探る植物工場(千葉大学)



エネルギーを創る技術

- 太陽光発電(ららぽーと柏の葉、パークシティ柏の葉キャンパス二番街、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)等)
- 風力発電(ららぽーと柏の葉)
- 温泉熱利用(柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区・2014年竣工予定)
- 生ゴミバイオガス発電(柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区・2014年竣工予定)
- 排熱利用・複合型コージェネレーション(柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区・2014年竣工予定)
- 太陽熱利用(柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区・2014年竣工予定)



テクノロジー

エネルギーの使い方の技術

- 各世帯の電気・ガス・水道使用量を“見える化”するCO₂削減ナビエコリンコの設置
(パークシティ柏の葉キャンパス一番街・二番街等)
- エネルギーの“見える化”を実現するAEMSの導入
(AEMS:Area Energy Management System)(柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)等)
- 街全体の蓄電池としても機能する電気自動車のシェアリングシステム
- 電力のピークシフト/ピークカットを実現する、2,000kWhNAS蓄電池(ららぽーと柏の葉)
- ピーク時の空調負荷を軽減する氷蓄熱装置(ららぽーと柏の葉)
- LED照明等の高効率機器の導入(ららぽーと柏の葉等)
- 消費電力を抑えるタスク&アンビエント照明・空調等(柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区・2014年竣工予定)



エネルギーを管理・最適化する技術

- AEMSによる地域のエネルギーの最適制御
(AEMS:Area Energy Management System)
- BEMSによるビル全体のエネルギーの最適制御
(BEMS:Building Energy Management System)
- HEMSによる住宅のエネルギーの最適制御
(HEMS:Home Energy Management System)



コミュニティ

暮らし方の提案

- 公民学連携のスマートシティ街づくり拠点、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)
- 環境共生の暮らしを実現するまちのクラブ活動(柏の葉エコクラブ・柏の葉ネイチャーキッズクラブ等)
- 地域住民のエコ活動の拠点、柏の葉フューチャービレッジ(KFV)
- 地域農産物の地産地消の場となる駅前産地直売市場・マルシェコロール
- 市民の手による駅前植栽活動、かしはなプロジェクト
- 環境負荷の少ない効率的な都市内移動を提案するマルチ交通シェアリング
- 省エネ量がエコポイントになり買物に利用できる地域通貨システム



●: 実現されている取り組み ○: すでに着手されている取り組み □: 今後実施が予定されている取り組み



柏の葉スマートシティ
完成イメージ

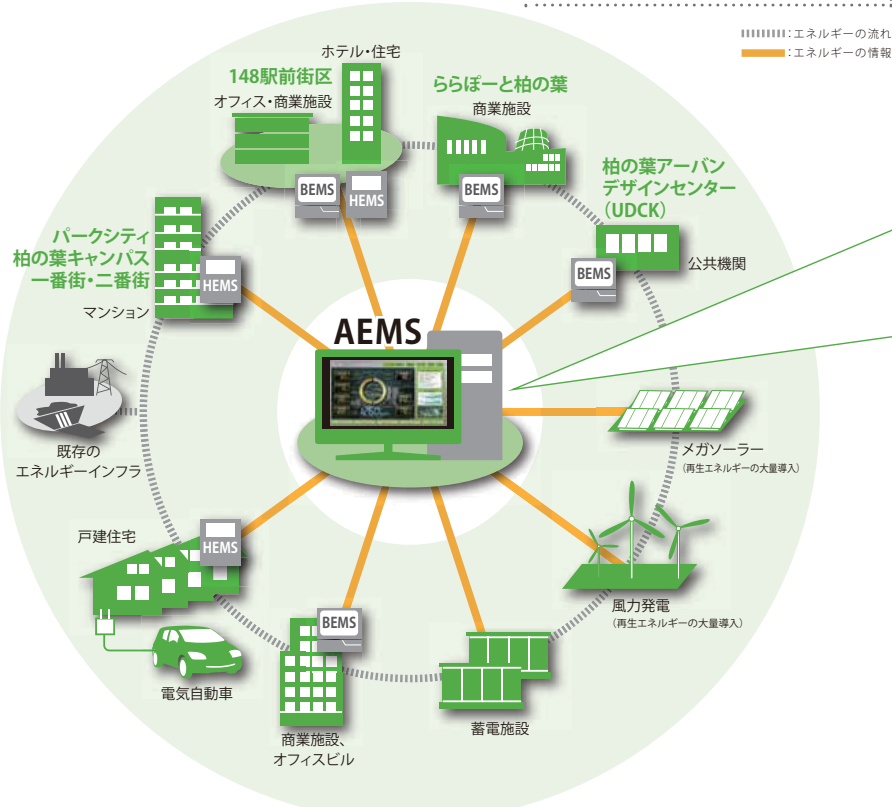


AEMSを中心に、街を構成する要素が、成長し、発展し、つながりあいます。

エリアエネルギー管理システム「AEMS」を中心に、つねに理想的なエネルギー利用を目指します。

- AEMS: Area Energy Management System
- BEMS: Building Energy Management System
- HEMS: Home Energy Management System

-----: エネルギーの流れ
 -----: エネルギーの情報



- 太陽光発電
- 風力発電
- 温泉熱利用
- 生ゴミバイオガス発電
- 排熱利用・複合型コージェネレーション
- 太陽熱利用

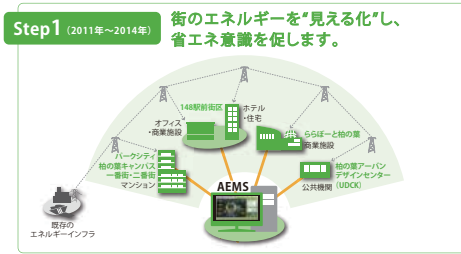
- 各世帯の電気・ガス・水道使用量を“見える化”するCO₂削減ナビエコリンコを設置
- LED照明等の高効率機器の導入
- 消費電力を抑えるタスク&アンビエント照明・空調等

- 街全体の蓄電池としても機能する電気自動車のシェアリングシステム
- 電力のピークシフト/ピークカットを実現する、2,000kWhNAS蓄電池
- ピーク時の空調負荷を軽減する水蓄熱装置

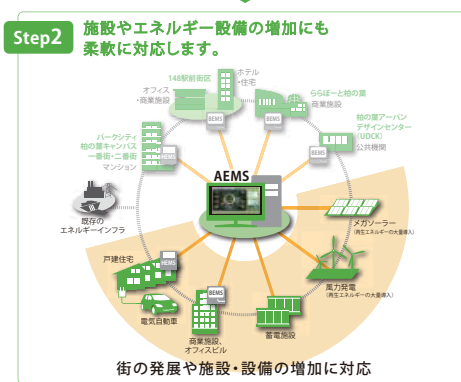
創 エネを実現する取り組み **省** エネを実現する取り組み **蓄** エネを実現する取り組み

エネルギーの見える化 ▶ 街全体のエネルギーの最適制御化 ▶ 地域相互の最適化
 AEMSで成長し、発展し、つながり合う、柏の葉モデルのスマートシティへ。

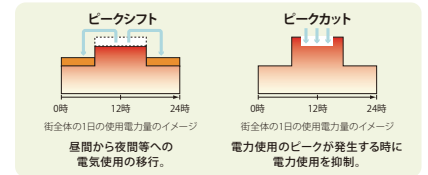
地域のエネルギー運用を効率化・最適化し、街の拡大・発展に合わせて成長する、柏の葉スマートシティのプラットフォーム、「AEMS」。



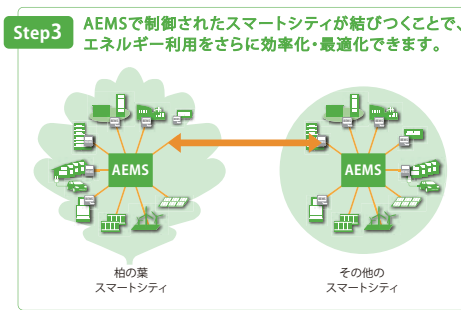
地域のエネルギー可視化と、節電ナビゲーションを実現します。
 AEMSは地域のエネルギー需給状況を数値やグラフ等でリアルタイムに確認できるシステム。街で使用している電力の需要・供給状況やその内訳、蓄電量などを表示し、節電を促す情報を提供します。さらにAEMSによる節電ナビゲーションを、柏の葉オリジナルのエコポイント制度なども連動させ、地域住民のエネルギーへの関心を高め、エネルギーの最適化や省CO₂に役立てます。



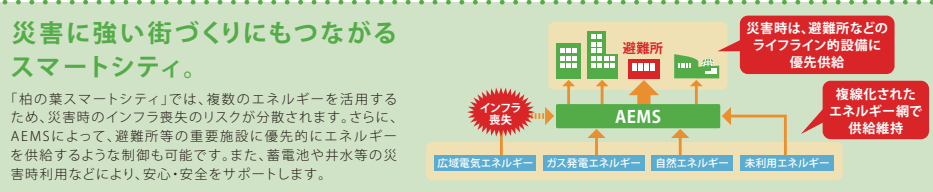
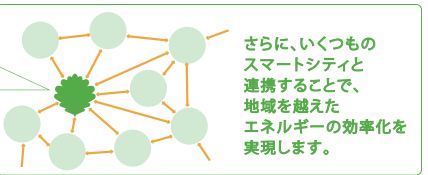
AEMS機能を高度化・知能化することで、街全体のエネルギーをアクティブに最適制御します。
 さらに、AEMSが高機能化することで、集積されたエネルギー情報をもとに需要予測を行い、エネルギー利用のさらなる効率化や標準化を街全体で管理・制御。ピークシフトやピークカットなどの自律的なコントロールを実現します。



AEMSは街の発展・拡大に合わせて、一緒に成長します。
 メガソーラー等の再生可能エネルギーの大量導入や、住宅や施設などの増加にも対応し、つねに最適なエネルギー制御を目指します。



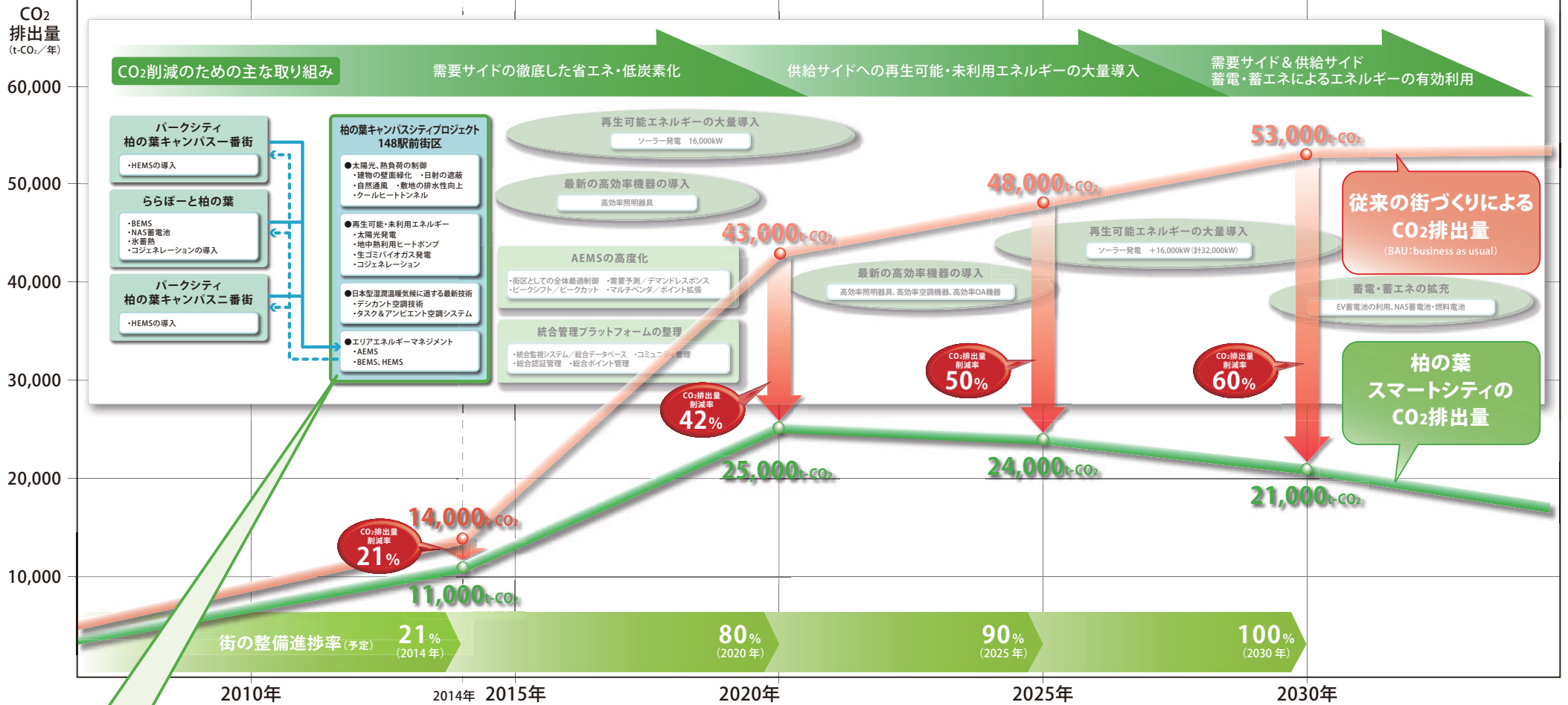
地域エネルギーの最適化から、地域相互のエネルギー最適化へと進化します。
 さらに、AEMSで制御された他のスマートシティとつながることにより、より大きな規模でのエネルギーコントロールや省CO₂が可能になります。



街の開発が進むほど、人々の営みが活発になるほど、低炭素でエコになる。
 柏の葉スマートシティが進化するほど、地球へのやさしさも深化します。

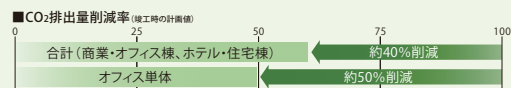
街づくりのロードマップとCO₂削減目標 ※1、※2

●本ロードマップはスマートシティ企画株式会社の実験によるものです。



スマートシティとしての機能を凝縮した最先端のエコ・コンパクトシティ、 柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区。(2014年竣工予定)

2014年に竣工予定の柏の葉キャンパスシティプロジェクト148駅前街区は、商業施設やオフィス、賃貸住宅、ホテルのほか、大学の研究施設、銀行、病院といった、さまざまな機能をコンパクトに集積するエリア。自然・未利用エネルギーの徹底利用、利用者・地域と取り組む省CO₂、自然と人をつなぐ空間を創出し、「柏の葉スマートシティ」の先導的・象徴的なモデルとして、その成果を他の街区や地域へ発信していく予定です。



※基準値 (東京都2005年度温暖化計画書制度による用途別CO₂排出原単位平均値)を100とした場合の削減率。本計画は設計段階のため変更となる可能性がございます。また実際の運用においてはCO₂排出量が計画と異なる場合がございます。

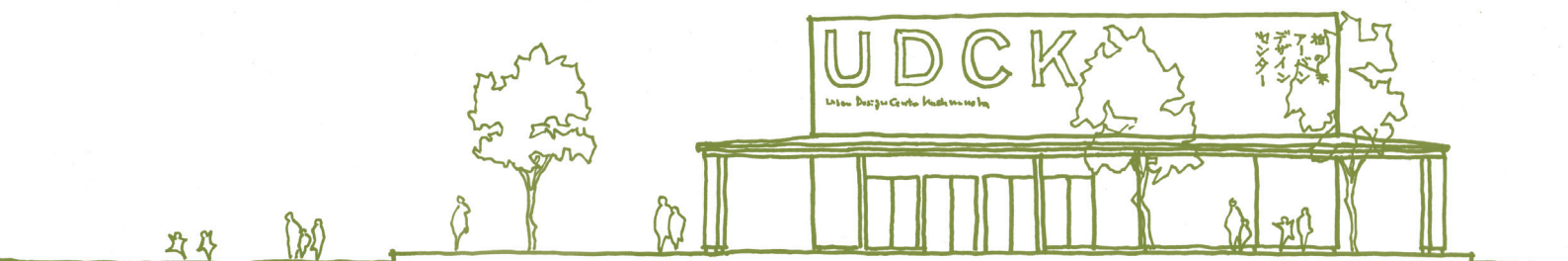


※1:街づくりの範囲は柏北部中央地区一帯型特定土地高整理事業約273haを対象として設定。 ※2:CO₂削減量は業務部門と家庭部門で算出。(産業部門、運輸部門等は算出対象外)

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha



UDCKとは

—公・民・学の連携によるまちづくり拠点

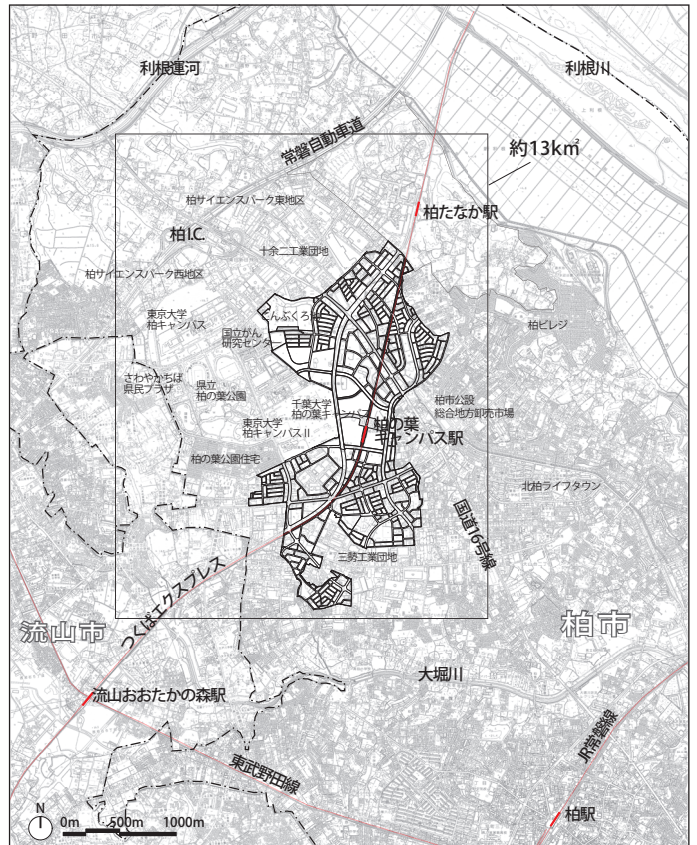
柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK:Urban Design Center Kashiwa-no-ha)は、柏市・柏の葉エリアを中心に、市民、行政、NPO、企業、大学(公・民・学)が連携・協働してまちづくりを考え、実践するための「組織」であり「場所」です。

千葉県柏市北部の柏の葉エリアでは、つくばエクスプレス(TX)整備・開通に伴い大規模な都市開発が進行しています。この地において、初代センター長となる北沢猛東京大学教授(故人)の提案に、柏の葉のまちづくりに係る関係主体が賛同する形で、2006年11月、TX柏の葉キャンパス駅西口前に開設されました。以後、都市整備の進展に合わせ、空間デザインの提案・調整や様々なイベントやプログラム活動を展開してきました。2010年9月には、駅東口に移転し新施設をオープン、さらなる活動の展開を目指しています。

役割と活動

UDCKの基本的な役割は、柏の葉エリアのまちづくりの推進を図ることにあります。UDCKを主体として現在行われている活動は大きく5つに分けられます。

- 1. まちづくりの推進**
：構想の立案・推進、会議の企画・運営を通じた調整
- 2. 研究・提案**
：大学の知を活かしたまちづくりの研究・提案
- 3. 実証実験・事業創出**
：先進的な取り組みの実証実験と新規事業創出
- 4. 空間計画**
：専門性を活かした先進的なアーバンデザインの実施
- 5. 交流・学習**
：大学の知の発信、地域連携の推進、人材育成



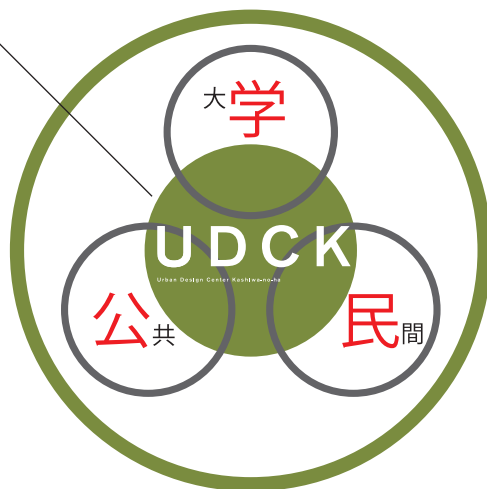
■柏の葉エリア
千葉県柏市の北部、2005年8月に開通したつくばエクスプレス沿線の約13km²のエリアです。東京都心まで約30km、電車で30分の距離に位置し、現在、沿線では大規模な土地区画整理事業が行われています。エリア内には東京大学・千葉大学のほか、国の研究機関、大規模な県立柏の葉公園等を含み、これらを活かした国際学術研究都市づくりが進められています。

組織と運営

UDCKの運営は、公・民・学の7つの「構成団体」の共同で行われており、これに、関係公共団体や各種専門企業が「協力団体」として関与しています。これらの団体の柔軟な連携によって、総合的なまちづくりを推進すべく、UDCKではまちづくりに係る専門性を持つスタッフが専任で従事し、様々な企画や運営、事業のコーディネートを行っています。

構成団体

- 公** 柏市
柏商工会議所
田中地域ふるさと協議会
- ×
- 民** 三井不動産
首都圏新都市鉄道
- ×
- 学** 東京大学
千葉大学



協力団体

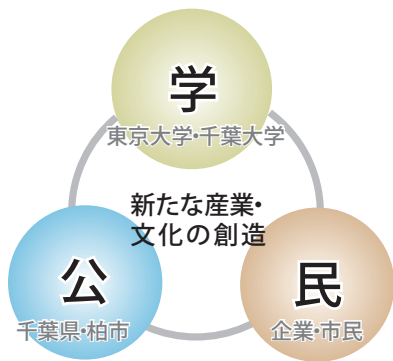
- 柏市都市振興公社(柏市の外郭団体)
千葉県
ワコールアートセンタースパイラル(アートディレクション)
都市環境研究所(全体構想の推進、エリア調査・分析等)
UG都市建築(まちづくり戦略、産業創出支援等)
NPO支援センターちば(市民活動サポート)
ジャパンライフデザインシステムズ(プログラム企画・運営)
ブラップジャパン(広報活動)
YRPユビキタス・ネットワークング研究所(ユビキタス、地域ICT)
藤崎事務所(環境・健康)

UDCK自体が新たなまちづくりの形、場所のあり方を探る実験でもあります。まちづくりの進展や活動の熟度に合わせて、自らの活動を評価・検証し、随時、変化していく柔軟な組織運営を目指しています。

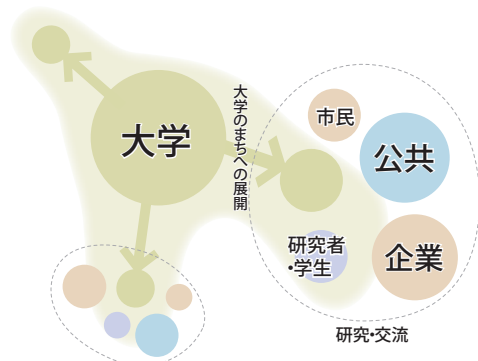
柏の葉国際キャンパスタウン構想

TX沿線地域(東葛地域)では、「環境・健康・創造・交流の街」を基本コンセプトに、国際学術都市づくりが目指されています。柏の葉エリアでは、その中でも重点的に学術研究資源の活用と国際化を推進するため、具体的な目標と方針を定めた「柏の葉国際キャンパスタウン構想」(以下:構想)が、千葉県、柏市、東大、千葉大の四者によって2008年3月に策定されました。

構想では、柏の葉国際キャンパスタウンを形成するために、公・民・学が連携し、キャンパスとまちが融和した創造的環境の中で、最先端の知・産業・文化が育まれる「国際学術研究都市」、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される「次世代環境都市」の実現を理念とし、8つの目標と26の方針を掲げています。



キャンパスから生まれる知と産業、文化



環境と健康、交流、創造のキャンパス

理念 柏の葉国際キャンパスタウン 公・民・学連携による国際学術研究都市次世代環境都市	目標 1 環境と共生する田園都市づくり 脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による「環境空間」と市民や企業の「環境行動」を誘発する	方針 1 『緑地ネットワーク』を保全し強化する 緑被率40%を維持 2 持続性の高い開発や建物の「ゼロモデル」を普及する 街区の緑化率25%、CO2削減35%を達成 3 市民生活を環境共生型に改める
	目標 2 創造的な産業空間と文化空間の醸成 TX沿線の知の集合を生かし、高度な新産業の育成と創造産業の集積を図る	方針 1 TX沿線の広域連携により世界水準の「100産業創出」と「10企業誘致」を進める 2 つくばと秋葉原の集積を結び「TX-ナレッジネットワーク」を構築する 3 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る
	目標 3 国際的な学術空間と教育空間の形成 世界をリードする研究機能と地域に開かれた学術空間が街に展開する新たな国際学術都市のスタイルを確立する	方針 1 世界をリードする研究や教育の機能を強化する 「10の研究や教育の機関」を誘致 2 外国人の研究者や学生が暮らしやすい居住環境を整える 「1000人の外国人研究者・学生等の活動」を支援 3 柏の葉から世界の最先端で活躍する人材を育成する 4 地域と大学や研究機関との連携により独自の文化や空間をつくる
	目標 4 サステイナブルな移動交通システム 自転車や公共交通を中心に地球と人に優しい移動環境を整備する次世代交通の総合的な実験成果を展開する	方針 1 世界の環境交通モデルとなる移動のシステムを整える 2 歩行者と自転車の楽しい移動を可能とするネットワークをつくる 「自転車分担率の10%増加」 3 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 「自動車分担率の10%低下」
	目標 5 キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出 環境に優しく健康に暮らす柏の葉スタイル、また豊かな交流や文化芸術を創造する	方針 1 健康で快適な生活空間と環境行動の「柏の葉スタイル」を定着させる 2 多様な住み方、暮らし方ができる住宅を供給する 「キャンパスリンク住宅を10%」 3 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる
	目標 6 エリアマネジメントの実施 安全で快適な環境と地域の価値を維持し向上させる地域経営組織を公・民・学連携で設立する	方針 1 環境・健康行動を普及し質を高めるマネジメントを行う 2 安全や魅力を生み価値を高めるマネジメントを行う 3 公・民・学の連携で自立したマネジメントを行う
	目標 7 質の高い都市空間のデザイン 先進の環境空間計画とデザインマネジメントにより都市と生活の質を高める「いい街がいい人(研究者、生活者)を呼ぶ」	方針 1 キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間をつくる 2 大学が街へ広がる学園の道 (University Axis) をつくる 3 緑の中に多様な活動が見える緑園の道 (Green Axis) をつくる 4 UDCKを中心にアーバンデザインを実現する 5 アーバンデザインを柏市域や沿線地域へ広める
	目標 8 イノベーション・フィールド都市 世界の最先端の技術や文化が展開する都市としてスパイラルアップする	方針 1 国際学術研究都市をアピールする 2 実証実験の支援と実現プログラムを提供する

8つの目標と26の方針

構想のフォローアップ

構想の実現に向けて早期に着手可能なテーマから重点的に取り組むことを目的に、2008年度には、UDCKが事務局となって、策定主体である四者によるフォローアップ体制を整えました(柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会)。2009年度には、柏の葉エリアにおける主な事業主体であるUR都市機構と三井不動産も加わり、取り組みのテーマごとに専門部会を設置して、検討・実践が行われています。このパンフレットで紹介するUDCKの様々な取り組みも、その多くが構想のフォローアップの中で展開されているものです。

「柏の葉国際キャンパスタウン」の実現に向け、今後も意欲的な取り組みを推進するとともに、上位計画や制度へのフィードバック及び構想自体の検証を行いながら、継続的な運用を図っていきます。



まちづくりの推進
 Area Design & Management
 International Campus Town Initiative

柏の葉国際キャンパスタウン構想の実現に向けて、フォローアップ体制を整え、関係者の連携を図りながら個別施策の実施に取り組んでいます。

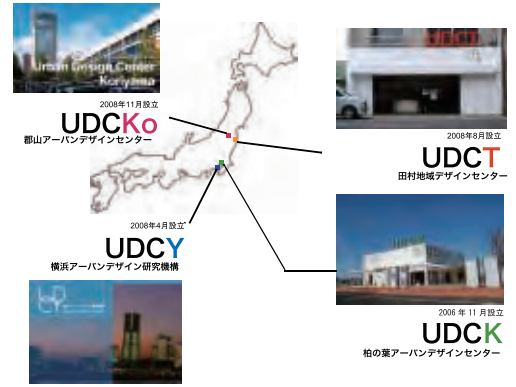
研究 × 提案

Community grid & Urban Design Studio & Research project

アーバンデザインセンター研究

近年、行政による都市計画や市民の自発的な活動に加え、地域の各主体が連携し、専門家が客観的な立場から携わるまちづくりのあり方が各地で模索されています。そのような新しい形の組織や拠点を「アーバンデザインセンター(UDC:Urban Design Center)」と呼び、国内外の事例を研究するとともに、UDCK自らがモデルとなり、UDCT・UDCKo・UDCYといったネットワークを全国に広げ、社会実験を展開しています。

※2008年度から東京大学GCOE都市空間文化再生(S3)部会の枠組みで研究しています



柏の葉コミュニティグリッド研究

現在柏の葉ではハードとソフトの両面からの多様な実験的取組みが進められていますが、これらを持続的な都市づくりにつなげていくことが今後の課題です。そこで、「まちづくりの各分野を地域スケールでつなぐ持続可能な空間計画と社会運営のシステム」を「コミュニティグリッド」と名づけ、システムのあり方及びその試案について研究に取り組んでいます。

※「2009年度千葉県持続可能な国際都市づくりのための新たな担い手育成支援事業」の助成を受け、柏の葉イノベーション・デザイン研究機構が実施しています



環境都市政策の研究

多岐に渡る環境分野を都市の視点から捉え、国内外問わず事例となる施策を規模・性質別に7分類し、「世界の環境空間計画100」としてまとめました(都市/交通/緑地/集合住宅・実験エリア/建築/技術・リサイクル/環境教育・コミュニティ)。それぞれに柏の葉への展開を踏まえ、特徴、歴史などを整理し、「環境空間計画100」としてまとめました。今後も継続的に調査研究を行っていきます。



都市デザインスタジオ

柏の葉キャンパス駅・柏たなか駅周辺地域を対象地とした、大学院のアーバンデザイン演習プログラムをUDCKで実施しています。東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の共同演習で、多くの研究者や実務家を講師に迎え、自治体や企業とのオープンな議論を通じて、空間デザインや制度設計、未来構想力を磨きます。提案のいくつかは学生プロジェクトとして、実践に結びついています。



都市デザインスタジオから派生した学生プロジェクト:提案を柏の葉地域で市民とともに実践している例

「柏の葉ピクニッククラブ(kpc)」:公共空間をテーマにガラスの花プロジェクト等でアーバンデザインを実施。ピクニックツールを市民と制作。
 「みちのプロジェクト」:千葉大敷地内通路を活動が交流する場と捉え、様々な検討やワークショップを実施。
 「セルフデザイン工房」:PLSとして実証実験。
 「balloon」:移動型公共機能について柏ビレッジの住民と検討を継続中。



大学との共同で、今後のまちづくりに係る基礎的な研究や、柏の葉のまちづくりに係る具体的な提案を行っています

2

実証実験 事業創出

Mobility & Environment

Experiment & Innovation

かしわスマートサイクル

次世代環境都市づくりを目指す柏の葉地域では、「自転車分担率10%増加」という具体的な目標を設定し、その実現に向けて自転車が利用しやすい環境づくりを進めています。2010年4月からは無人ポートにより、まちで自転車を共同利用する「かしわスマートサイクル」の社会実験を行っています。

* (財)柏市都市振興公社と柏市が主催し、UDCKは協力しています



公衆電源サービス

「公衆電源サービス」とは商業空間や公共空間など、まちなかに設置されているコンセントから給電を受けられるサービスです。様々な電化製品のモバイル化が進む中、新しいコンセントのあり方を通じて、近未来のライフスタイル探る社会実験を、東京電力と共同で実施しています。今回供給される電力はグリーン電力を使用しています。



PLS Public Life Space -小さな公共空間-

PLS (Public Life Space) はユニットハウスを活用して新しい時代の公共空間のあり方を探る実証実験です。UDCKの敷地内にタイプの異なる実験施設を設置し、市民やアーティストによる活用など、試験運用を行っています。

* 柏の葉イノベーション・デザイン研究機構 (東京大学、三協フロンテア、三井不動産、柏商工会議所) が「2007年度千葉県国際学術研究拠点形成促進モデル事業」の助成を受け、設置しました



柏ITS推進協議会

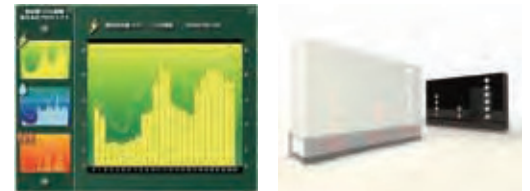
柏市が2009年6月にITS実証実験モデル都市に選定されたことを受け、「柏ITS推進協議会」が設立されました。柏の葉地区をフィールドに、ITSを活用した研究開発や実証実験を行っていく予定です。

* ITS (Intelligent Transport Systems) : 「高度道路交通システム」



柏の葉街エコ推進協議会

次世代型環境都市の実現に向け、公民学連携の地球温暖化防止等に関する地域活動を普及させることを目的に、「柏の葉街エコ推進協議会」が設立されました。家庭の光熱使用量をグラフ化した環境家計簿、まちのエネルギーCO₂排出量を見える化するプロジェクト等を進めています。



TXアントレプレナーパートナーズ (TEP)

多くの先端技術や先進的研究が集まるつくばエクスプレス (TX) 沿線の地域特性を生かし、筑波・柏の葉・秋葉原を核とした多くの起業家を育成・支援するネットワーク組織です。日本のアントレプレナー活動の中心的役割を担いながら、海外との交流を積極的に持ち、産業の視点から地域の活性化を図っていくことを目指しています。

フューチャーデザインセンター (FDC)

小宮山宏氏 (㈱三菱総合研究所理事長) の提唱のもと、近い将来必ず世界の課題となるであろう環境・食糧・医療・教育などの国家的課題を解決するため、「先進モデル」を提示し、柏の葉キャンパスをフィールドとして実現していくことを目的に、一般社団法人フューチャーデザインセンター (FDC) が設立されました。



大学の先端的な研究の実証や、民間企業が開発する新技術の実験的導入などにより、未来の都市のあり方を模索し、新規事業創出を図ります

3

柏市北部中央地区 アーバンデザイン方針

柏の葉キャンパス駅周辺の区画整理約170haは、千葉県施行で整備が進められています。UDCKは、2007年度より県と市と協働して区画整理区域全体を対象としたアーバンデザインを検討しました。基本的な考え方となるまちづくり方針を提案・立地・周辺環境・用途地域を勘案して、14のゾーンに区分しました。保留地を多く含む街区はモデル街区として試設計を行ない、販売条件の素案を作成しました。ゾーン別のアーバンデザイン方針や他モデル街区のデザインなど検討を進めるとともに、市民や地権者に成果を開示し、対話を始めています。

キャンパスタウンの骨格形成方針

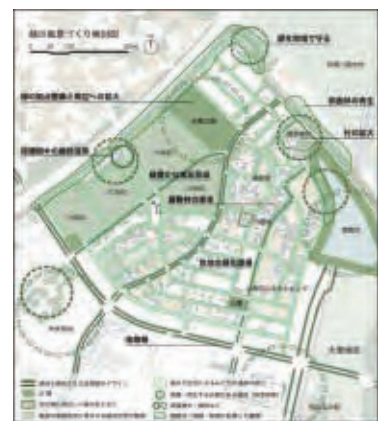


地区の特性把握・誘導方針



柏北部東地区 柏たなか農あるまちづくり

「都市農業と共存する田園都市づくり」を検討・推進するため、柏たなか駅周辺地区では公民学連携のもと、農あるまちづくり実行委員会を組織しました。農業体験農園の整備や様々な企画をはじめ、原風景を活かした景観形成(案)の検討や景観ガイドブックの作成を行いました。PLSを展開させた環境コンピニステーションは、それら一連活動の啓発・学習・体験拠点として、柏たなか駅前にて運用しています。



緑園のまちづくり

「緑園の道」は、北はこんぶくろ池公園周辺から南は小中学校予定地周辺までの約1.5キロメートルをつなぐ緑の軸として構想されたものです。2008年度は、事業施行者、管理者、UDCK、専門家がワーキンググループを組織し、街路と沿道のデザインを検討しました。2009年度には具体的な設計を視野に詳細を検討し、関係部局との調整を図っています。こうした検討や関係者の努力によって、駅南側については区画整理の原案を見直し、街路整備の高質化が図られることとなりました。



柏の葉キャンパス駅149街区 アーバンデザイン調整

柏の葉キャンパス駅に隣接する5街区は、柏市景観形成重点地区に指定され、一体的な空間整備、良好な景観形成が図られています。数年前より柏市は149街区の共同化や協調化に向けて勉強会を行っており、2007年度よりUDCKも検討に加わっています。まちづくり基本方針を検討し、街並型建築の実現、協調型の街区形成、駅前広場と駅前東通線における緑のシンボル軸、環境共生型の土地利用と建築、エリアマネジメントの実践など、7項目を目標に挙げています。



エリア全体のアーバンデザイン方針を検討・提示し、公共空間デザインや街区の景観誘導等によって、質の高い都市空間の形成を進めています。

まちづくりスクール

「まちづくりスクール」は、これからのまちづくりの担い手を育てることを目標とした市民講座です。大学の教授陣やまちづくりの第一線で活動する専門家を講師に迎え、まちづくりの理論や先進的なプロジェクトについて学びます。まちづくりスクールを通じて、さまざまな分野の方が交流し、これからのまちづくりについて語り合うことで、実践的なまちづくりに繋がっていくことを期待しています。

* (財)柏市都市振興公社が主催し、UDCKは共催しています



柏の葉カレッジリンク・プログラム

サステナブルデザイン学（暮らしや地域に関わる問題を俯瞰的に捉え直す学問）をテーマに、環境・健康・食の視点から、地域と大学が学び合う場であり、市民一人ひとりが暮らしを考えるプログラムです。受講生・修了生は、かし＊はな等の課外活動に参加することで、新しいコミュニティや暮らし作りを実践しています。

* 千葉大学が主催し、UDCKは協力しています



柏の葉エコ・デザインツアー

「柏の葉エコ・デザインツアー」は、エコ・デザインを核とした地域の取組みをツアーで周ることで、地域の魅力を再発見し、参加者と地域を繋げていくプログラムです。環境に配慮した暮らしや工夫を楽しみながら学び、一人ひとりが日常生活の中に取り入れ、継続していくしくみです。



五感の学校

ピノキオプロジェクト、マルシェコロール、お花見ピクニック月間 他

「五感の学校」アートプロジェクトは、五感に働きかける様々なプロジェクトを通じ、ひとがまちで学び・交流を楽しむ入口となっています。「ピノキオプロジェクト」は就業体験をメインとした柏の葉ならではの子ども向け教育プログラムです。「マルシェコロール」は地域が自ら運営する都市型市場の実現を目指し、地縁のある出店者が柏の葉独自の商品を生み、時にはピノキオ達も活躍しています。

* 「ピノキオプロジェクト」は、'08年度グッドデザイン・キッズデザイン賞、「はっばっば体操」は'09年度グッドデザイン・キッズデザイン賞を受賞しました



まちのクラブ活動

まちが豊かになるために、住民が抱く「あったらいいな」を住民の力で実現するための仕組みとして生まれたのが、まちのクラブ活動です。柏の葉フューチャーヴィレッジ(KFV)を拠点に、現在クラブ数は20を超え、新しい住民が地域に溶け込む入口となっています。



かし＊はなプロジェクト

駅前ロータリーを花や緑で、美しく彩るプロジェクトです。車いすの方でも園芸を楽しむことができる「レイズドベット工房」や食べられる野菜を育てるガーデンなどで、ユニークな景観づくりが展開されています。

* '09年度「千葉県持続可能な国際都市づくりのための新たな担い手育成支援事業」の助成を受けて実施しています



Kサロン

Kサロンと称してUDCK主催の交流会をしています。地元やつくばエクスプレス沿線の関係者、まちづくり活動を各地で展開されている方をゲストに招き、各自の活動について話題提供し、これからのまちづくりの方向性や可能性を様々な角度から話し合っています。



様々なスクールやアートイベント、市民参加型プログラムによって、新しいライフスタイルの形成や、市民が担う地域運営の実現を目指しています

柏の葉 kashiwanoha International Campus Town Initiative 国際キャンパスタウン構想

【概要版】

0 構想の全体像

構想の目的

我が国においては、人口減少や少子高齢化、環境・健康・防犯・防災、経済活力などの様々な問題の顕在化に加え、ライフスタイルの多様化などによる街の居住者・利用者のニーズの変化に対応した、新たな都市像の確立が求められている。

本構想が対象とする柏の葉地域は、大学や国等の公的研究機関、多くの企業や住宅等が立地し、都市に関する諸問題への対応はもちろんのこと、公・民・学が連携した先端的な都市づくりが可能な非常に高いポテンシャルを持つことから、世界水準の都市づくりを先導するモデルとしての役割を担っていると言える。本地域ではこれまで、「環境・健康・創造・交流の街」をコンセプトとして、公・民・学の連携により、まちづくりが進められてきた。本構想は、これら現在までの計画や検討結果、まちづくりの成果、また2006年度の基礎調査を踏まえ、地域の関係者である千葉県・柏市、大学、民間企業、市民・NPO等が連携・協働し、先端的な都市づくりを具体的に実践するための構想として策定するものである。

また、この構想は、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の共同調査で作成しており、新たな地域ビジョンに基づく新しい政策テーマを先取りした構想であり、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれている。そのため、この構想の実現にあたっては、各団体内部での更なる検討や関係機関との調整を行い、制度の改善や上位計画へのフィードバック、フォローアップ、そしてこの構想の見直しも含めて運用していくことが必要である。

対象区域



※区域1を主な対象とするが、広域的な考え方が必要なものは区域2を対象として含める

目標と方針

我が国における都市づくりの潮流

- ・人口減少
- ・縮小社会対応
- ・少子高齢化対応
- ・ユニバーサルデザインの都市づくり
- ・地球環境問題への対応
- ・生活環境・健康へのニーズの高まり
- ・市民参加や地域活動の高まり
- ・自由時間拡大に伴うライフスタイルの多様化
- ・防犯・防災に対する意識の高まり
- ・まちづくり・環境教育の普及と人材教育
- ・スパイラルアップによる計画評価や次計画・事業への反映向上

世界の先端都市づくりの潮流

- ・サステナブルな都市づくり
- コンパクトな都市形態、用途の混合、適切な街路計画、公共交通の促進や低負荷型交通、環境コントロール、歴史文化遺産の保全活用、適正な開発容量と開発速度
- ・地域性への配慮と多様な表情
- ・適度なスケール
- ・水準の高い都市経営・地域管理
- ・高質な公共空間デザイン
- ・近隣住民組織を中心とした生活の質的向上(住民自治・住民管理)
- ・文化による都市経済戦略
- ・「間にある都市」や「縮小都市」での対策

地区の特性と課題

- ・国際キャンパスタウンのアイデンティティの創出
- ・当面の人口増加対応(小学校建設等)と長期的な人口減少対応
- ・急激な開発と地域との共生
- ・豊かな緑とオープンスペースの保全活用
- ・貴重な農地や樹林地の活用
- ・広域交通の利便性
- ・地域内交通の利便性向上
- ・複数の大学の活用と連携
- ・がんセンター、科警研、東葛テクノプラザ等の先行施設の活用
- ・土地利用計画の見直しを含めた検討の必要性

理念

柏の葉国際キャンパスタウン

Ⅱ 公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市

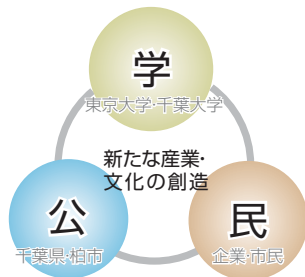
- 目標 1 環境と共生する田園都市づくり**
脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による『環境空間』と市民や企業の『環境行動』を誘発する
- 目標 2 創造的な産業空間と文化空間の醸成**
TX沿線の知の集合を生かし、高度な新産業の育成と創造産業の集積を図る
- 目標 3 国際的な学術空間と教育空間の形成**
世界をリードする研究機能と地域に開かれた学術空間が街に展開する新たな国際学術都市のスタイルを確立する
- 目標 4 サステナブルな移動交通システム**
自転車や公共交通を中心に地球と人に優しい移動環境を整備する次世代交通の総合的な実験成果を展開する
- 目標 5 キャンパスリンクによる柏の葉スタイルの創出**
環境に優しく健康に暮らす柏の葉スタイル、また豊かな交流や文化芸術を創造する
- 目標 6 エリアマネジメントの実施**
安全で快適な環境と地域の価値を維持し向上させる地域経営組織を公民学連携で設立する
- 目標 7 質の高い都市空間のデザイン**
先進の環境空間計画とデザインマネジメントにより都市と生活の質を高める“いい街がいい人(研究者、生活者)を呼ぶ”
- 目標 8 イノベーション・フィールド都市**
世界の最先端の技術や文化が展開する都市としてスパイラルアップする

理念

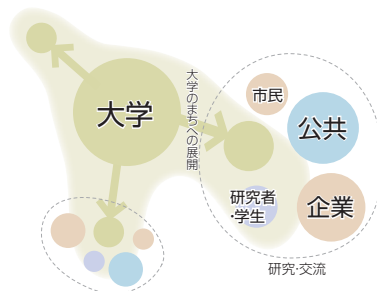
柏の葉国際キャンパスタウンを形成するために、公・民・学が連携し、キャンパスとまちが融和した創造的環境の中で、最先端の知・産業・文化が育まれる国際学術研究都市、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される次世代環境都市を実現する。

柏の葉国際キャンパスタウン

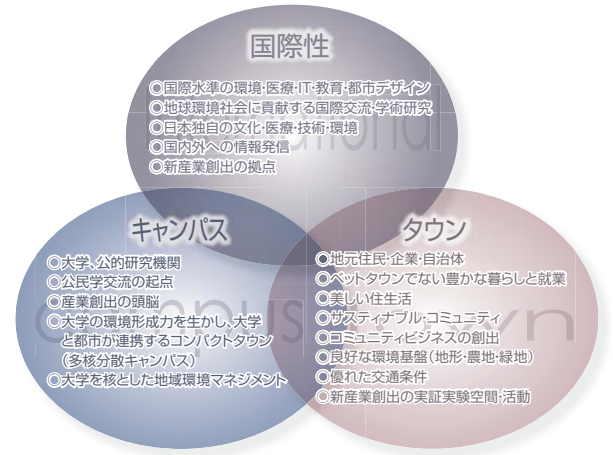
公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市



キャンパスから生まれる知と産業、文化



環境と健康、交流、創造のキャンパス



- 方針**
 - 「緑地ネットワーク」を保全し強化する 緑被率40%を維持
 - 持続性の高い開発や建築の「柏モデル」を普及する 街区の緑化率25%、CO2削減35%を達成
 - 市民生活を環境共生型に改める
- 方針**
 - TX沿線の広域連携により世界水準の「100産業創出」と「10企業誘致」を進める
 - つくばと秋葉原の集積を結ぶ「TX・ナレッジ・ネットワーク」を構築する
 - 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る
- 方針**
 - 世界をリードする研究や教育の機能を強化する 「10の研究や教育の機関」を誘致
 - 外国人の研究者や学生が暮らしやすい居住環境を整える 「1000人の外国人研究者・学生等の活動」を支援
 - 柏の葉から世界の最先端で活躍する人材を育成する
 - 地域と大学や研究機関との連携により独自の文化や空間をつくる
- 方針**
 - 世界の環境交通モデルとなる移動のシステムを整える
 - 歩行者と自転車の楽しい移動を可能とするネットワークをつくる 「自転車分担率の10%増加」
 - 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 「自動車分担率の10%低下」
- 方針**
 - 健康で快適な生活空間と環境行動の「柏の葉スタイル」を定着させる
 - 多様な住み方、暮らし方ができる住宅を供給する 「キャンパスリンク住宅を10%」
 - 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる
- 方針**
 - 環境・健康行動を普及し質を高めるマネジメントを行う
 - 安全や魅力を生み価値を高めるマネジメントを行う
 - 公民学の連携で自立したマネジメントを行う
- 方針**
 - キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間をつくる
 - 大学が街へ広がる学園の道(University Axis)をつくる
 - 緑の中に多様な活動が見える緑園の道(Green Axis)をつくる
 - UDCKを中心にアーバンデザインを実現する
 - アーバンデザインを柏市域や沿線地域へ広める
- 方針**
 - 国際学術研究都市をアピールする
 - 実証実験の支援と実現プログラムを提供する



環境と共生する田園都市づくり

脱炭素社会モデルとなる緑地保全や持続型開発による『環境空間』と市民や企業の『環境行動』を誘発する

方針1

『緑地ネットワーク』を保全し強化する 緑被率40%を維持

地域で育まれてきた豊かな自然環境を継承した環境共生型の都市を実現するため、地域を取り囲む水系をつなぎとめ、生態環境の軸を保全、創出する。さらに地形や緑、農地などを重要な資源として保全し、それらをつなぐ緑のネットワークを形成、強化する。

重点施策

- | | |
|----------------------------|---|
| 1)「利根川水系緑の回廊」と「柏の葉緑の回廊」を保全 | —— 緑地の保全と街路樹や公園緑地、開発内緑地の創出により、緑の骨格空間の形成 |
| 2)自然的な緑地や水系を繋ぐ「生態系緑地」を創出 | —— 自然緑地の保全に、税減免等のインセンティブ制度を創設 |
| 3)緑地や農地の「保全活用システム」を整備 | —— 農業を生かす特徴ある区画整理や宅地開発、菜園付き住宅の供給 |

方針2

持続性の高い開発や建築の『柏モデル』を普及する 街区の緑化率25%、CO2削減35%を達成

環境問題がグローバル化しつつある中で、最先端の環境技術を取り入れた環境負荷の小さな開発や建築により、従来型開発と比較してCO2の35%削減した脱炭素社会モデルとなる、持続性の高い環境共生型都市形成を「柏モデル」として普及し、環境空間を形成する。

重点施策

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1)街区と建築の「高効率化と長寿命化」 | —— 自然エネルギー利用とマイクログリッド※の展開 |
| 2)「環境技術の複合利用」により、2030年には35%以上の削減 | —— 柏の葉地域、駅前地区の開発においてCO2削減モデルを先行実施 |
| 3)柏独自の「環境まちづくりガイドライン」の運用 | —— 中小規模の開発・建築の規制と誘導、インセンティブの活用 |
| 4)サステナブルキャンパスの実現 | —— 大学キャンパスにおけるCO2削減モデルの実施 |

※マイクログリッド：様々な新エネルギーを組み合わせるIT技術をフルに活用し制御・運用し、効率が高く安定した電力・熱供給を行うシステム

方針3

市民生活を環境共生型に改める

環境都市の実現のために、市民のライフスタイルにおける意識付けから、身近な取り組みや地域の環境保全活動の充実が求められる。市民や企業の環境行動を普及・促進し、活動を支援することにより、市民に永く愛され、誇れる田園都市を実現する。

重点施策

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1)「エコ・デザイン・ツーリズム」による環境への関心や理解 | —— エコ・デザイン・ツーリズムによる環境意識の普及拡大 |
| 2)「エコ・ポイント」の地域全体への普及と循環を促進 | —— 地域民間企業との連携によるエコポイントの導入 |

■柏の葉地域の緑被率

計画的な緑地の保全と創出により、エリアの現状の緑被率(※)を踏まえた、緑被率約40%を維持する。

現在の柏の葉地域の緑被率

約45%

※緑被率＝樹林地、農地や公園、民地内の緑化部分等を緑被地として算入。

緑被率の計算

- 右図の範囲を仮に設定
- 航空写真より緑被地(樹林地、農地、公園等)の色を抽出(右図)。
- 全体の画素数と、抽出した緑被地部分の画素数の割合を、画像処理ソフトにより計算。



図：柏の葉の緑

■緑地ネットワーク形成の考え方

以下の考え方のもと、緑地ネットワークを形成する。

- ①広域的な骨格としての「利根川水系緑の回廊」の保全・形成
柏の葉地域を囲む利根川等の水系と斜面林等からなる豊かな緑を、既存緑地、農地や水辺などの維持・保全と連担性の拡充によってつなぎとめ、利根川水系緑の回廊を形成
- ②柏の葉の緑のコアを連担させ、「柏の葉緑の回廊」の保全・形成
柏の葉の中心部で緑のコアを形成している、大学や柏の葉公園、こんぶくろ池等緑豊かな公共施設や、豊かな緑と農地が残る正連寺等をつなぎ「柏の葉緑の回廊」を位置づけ、緑の保全とつながりの強化
- ③「利根川水系緑の回廊」、「柏の葉緑の回廊」を繋ぐ緑の形成
 - 地域に連担する、質の高い、まとまった農地、樹林地等の保全
 - 【区画整理地外】—原則として緑の保全
 - 【区画整理地内】—緑や農地を生かした区画整理を実施
 - 道路、地形、地域資源を骨格として緑を連結
 - 【都市計画道路】—計画道路を緑の骨格と捉え、道路自体の環境形成、及び沿道公共施設等のオープンスペースの整備活用、沿道環境のコントロール
 - 【斜面緑地環境の再生】—地形を手がかりとし、谷津田沿いにかつてあった斜面緑地を地域の記憶として再生するコントロールにより、谷筋の緑によるネットワークの形成
 - 【野馬土手】—ネットワークを形成する際の手がかりとしてネットワークに組み込み、資源として保全
 - 緑化環境コントロールにより緑を拡大
環境コントロールによる緑地の拡大によって、緑を拡大し生態豊かな環境の形成

創造的な産業空間と文化空間の醸成

TX沿線の知の集合を活かし、高度な新産業の育成と創造産業の集積を図る

方針1

TX沿線の広域連携により世界水準の『100産業創出』と『10企業誘致』を進める

国際競争力や社会経済活力の向上のため、世界水準の産業創出と企業誘致を実現する。柏の葉への大学や研究施設の集積の活用、TX沿線の広域的連携の強化により、柏の葉独自の環境・健康に関する研究を展開し、産業創出を支援・促進させるシステムを構築する。

重点施策

- 1) 産業創出のため「未来指向の研究開発」を進めるラボやセンターの充実 — 柏の葉ラボやフューチャーセンターの創設
- 2) 「環境健康研究とビジネス」を柏の葉の主力産業として育成 — 企業誘致制度やベンチャーファンド、優遇制度の拡充
- 3) バーチャルな産業空間の創出 — 地域の製品や企業情報を集約し、仮想産業空間の構築

方針2

つくばと秋葉原の集積を結ぶ『TX-ナレッジ・ネットワーク』を構築する

つくば-柏の葉-秋葉原の産業連携軸「TX-ナレッジ・ネットワーク」を構築し、研究開発過程のスパイラルアップによる技術開発と需要創造を行う。柏の葉エリアは研究開発の拠点として、大学、企業、行政が柔軟に連携した新産業創出を支える環境を整える。

重点施策

- 1) 柏の葉地域を核とする研究や産業の「創出支援策」 — 研究と企業を繋ぐ情報の一元化とプロジェクトコーディネーターの配置
- 2) 世界企業や成長産業の「誘致戦略」の充実 — 柏国際学術都市支援会など、広範な協働関係を構築
- 3) 広域交通ネットワークの補強・整備 — 国道16号の改善、成田空港からのアクセスの検討

方針3

既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る

既存の産業集積や技術と、大学等の技術者や研究者等とのコラボレーションによって、既存産業の高次化プロジェクトを推進し、新たな価値を創造する。また、新産業創出に向けた展開や施策を通して、既存産業の環境改善や競争力の強化を図る。

重点施策

- 1) 大学と企業連携による技術やビジネスの革新 — 柏の葉イノベーション・デザインプロジェクト
- 2) アートやデザインを通して柏ブランドの創出 — 柏デザイン戦略の推進

■千葉県内の企業・研究所等の状況



出典:千葉県産業振興戦略 千葉県 H18年6月

■TX沿線都市による新産業創出連携のイメージ

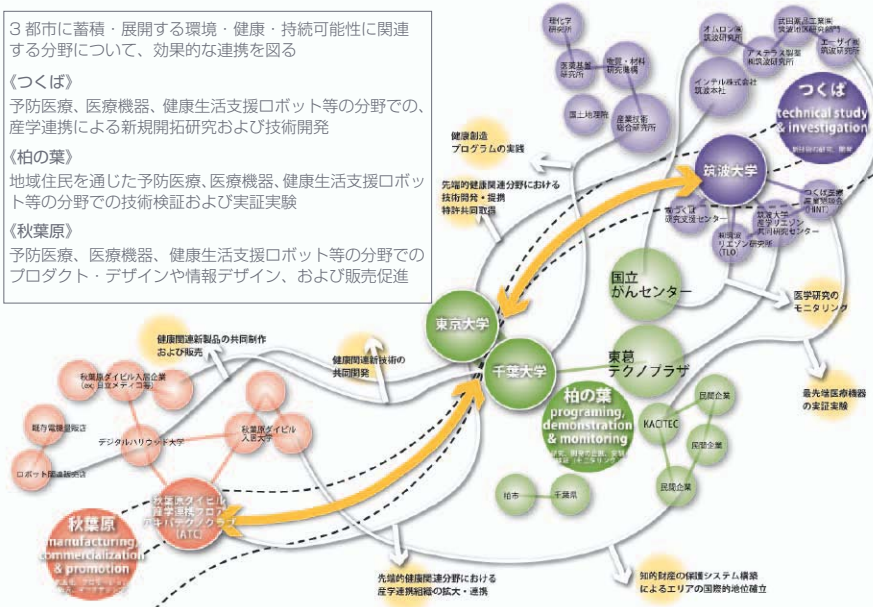
「TX-ナレッジ・ネットワーク(TX沿線都市の連携による新産業創出構造体)」の構築

3都市に蓄積・展開する環境・健康・持続可能性に関連する分野について、効果的な連携を図る

〈つくば〉
予防医療、医療機器、健康生活支援ロボット等の分野での、産学連携による新規開拓研究および技術開発

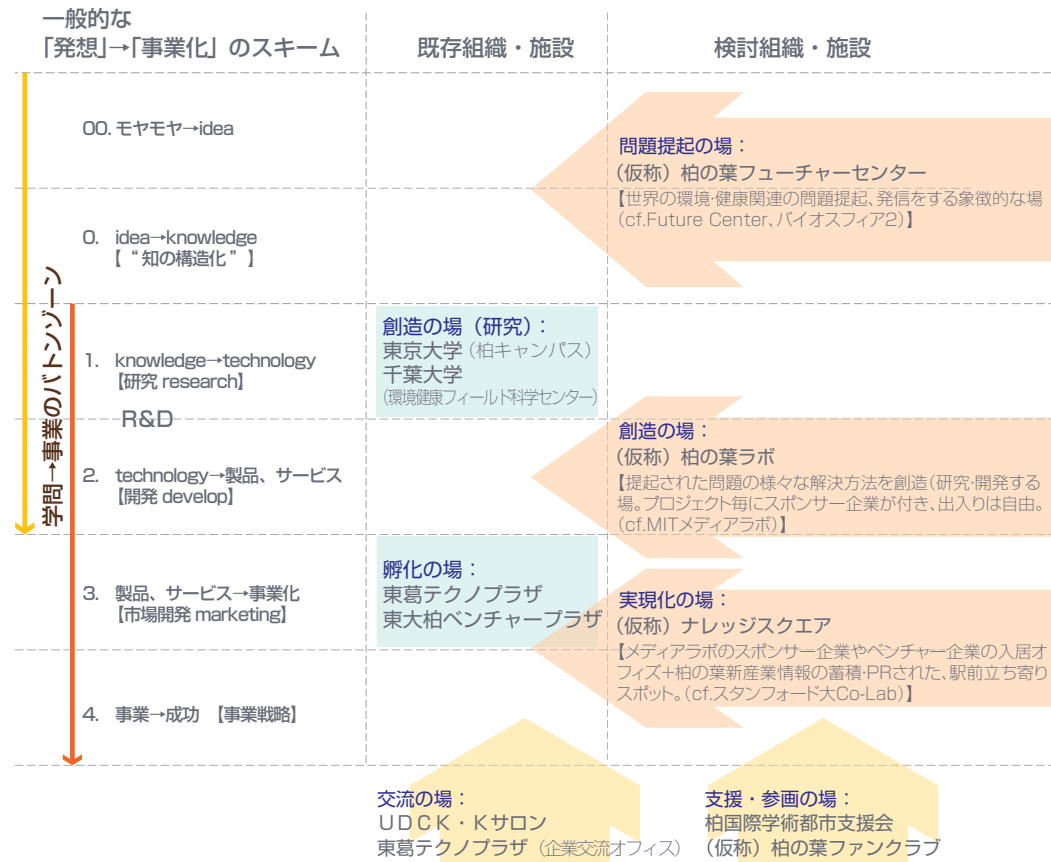
〈柏の葉〉
地域住民を通じた予防医療、医療機器、健康生活支援ロボット等の分野での技術検証および実証実験

〈秋葉原〉
予防医療、医療機器、健康生活支援ロボット等の分野でのプロダクト・デザインや情報デザイン、および販売促進



■(仮称)柏の葉新産業創出支援ネットワークの構築(案) ～新産業創出のスキームから見た各組織・施設の位置づけ～

柏の葉における新産業創出を街として促進していくためには、新産業創出のスキームから見て、例えば以下のような組織・施設の新規検討と既存組織・施設との強力な連携・支援のあり方を検討するとともに、その遂行組織となる(仮称)柏の葉新産業創出支援ネットワークの構築が必要である。

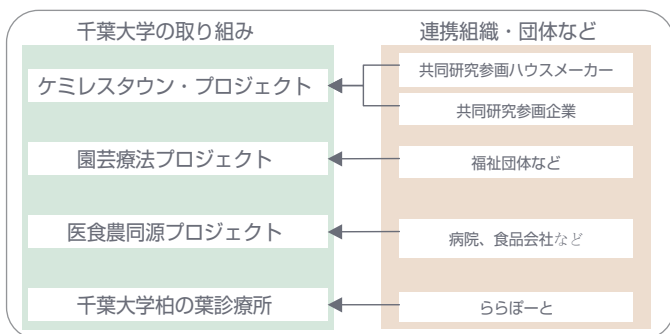


フューチャーセンターイメージ

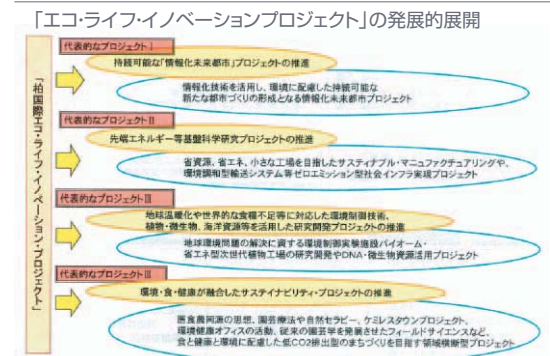


ラボイメージ

■千葉大学による環境健康に関する研究・取り組みイメージ

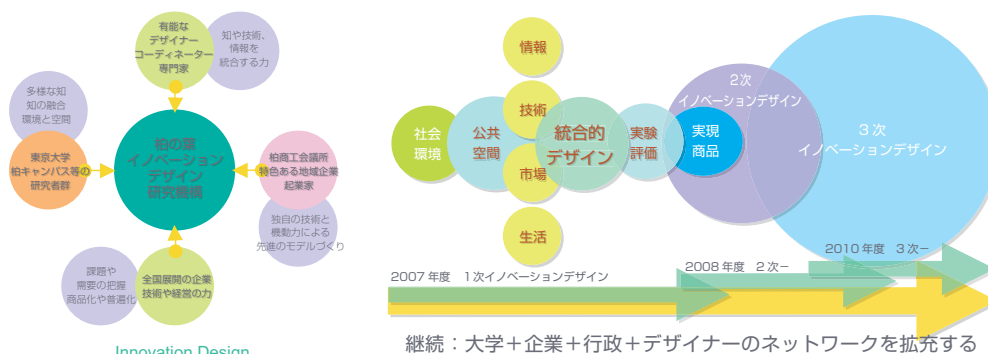


■現在進行中の産学連携



■柏の葉イノベーションデザインプロジェクト

大学や地域の連携によるイノベーション・デザイン研究を推進する。



○ユニットハウスによる、環境にやさしい、新しい公共空間の実証実験



地元発の環境型建築技術であるユニットハウスを活用し、「新しい公共空間」のあり方の提案と検証

国際的な学術空間と教育空間の形成

世界をリードする研究機能と地域に開かれた学術空間が街に展開する新たな国際学術都市のスタイルを確立する

方針1

世界をリードする研究や教育の機能を強化する「10の研究や教育の機関」を誘致する

東大や千葉大の現況機能の他、各種研究機関の誘致・集積等を進め、世界をリードする国際学術研究都市を形成する。また、国際的な学会の開催等による学術交流を積極的に推進するとともに、それらが可能な施設整備や各種機関の協力体制などの基盤づくりを図る。

重点施策

- 1) 先端的・総合的・東洋思想の頭脳が集積する世界レベルの研究拠点を形成する
- 2) 高度で先端的な研究機関の誘致制度・体制を確立する
- 3) 国際的な学術交流が可能な空間とシステムをつくる

- 東大数物連携宇宙研究機構、千葉大予防医学センター、東洋医学や東洋思想、ジェロントロジー等の学問領域の創造
- 研究機関立地への補助や融資等の優遇措置
- 三井ナレッジスクエアの支援と公民協働の企業誘致
東京大学フロントキャンパスの整備支援

方針2

外国人の研究者や学生が暮らしやすい居住環境を整える「1000人の外国人研究者・学生等の活動」を支援

外国人研究者・学生等が暮らし活動する、国際キャンパスタウンにふさわしい街を目指して、外国人研究者等が使いやすく、研究に取り組みやすい住宅の整備や、医療施設や子育て・教育施設の充実など、その家族等も住みやすい環境を創出する。

重点施策

- 1) 外国人研究者向けの住宅や医療・子育て環境等の生活支援施設を整備
- 2) 外国人に対する情報提供や相談窓口の設置

- 駅前地区でのキャンパスリンク住宅のガイドライン
外国人に常時対応可能な中核的な病院の整備支援
インターナショナルスクールの誘致
東京大学インターナショナルロッジの整備支援

方針3

柏の葉から世界の最先端で活躍する人材を育成する

特色ある大学や高水準の幼稚園・小中学校・高校などの教育機関の誘致や、既存学校における学校・教師などの教育水準の向上により教育環境の充実を図る。さらに、企業等との連携による留学生支援等を通じて、柏の葉から世界で活躍する人材を育成する。

重点施策

- 1) 大学や芸術文化系の専門学校など特色ある教育機関の誘致
- 2) 中学校や高等学校の誘致と教育環境の向上
- 3) 企業の資金支援による人材育成

- 専門学校、大学等の誘致
- 高水準の小中学校、高校等の誘致
大学連携等による既存小中学校、高校の教育水準の高次化
- 企業の支援によるアジア等からの研究員の受け入れ

方針4

地域と大学や研究機関との連携により独自の文化や空間をつくる

街と大学が共存するキャンパスリンクの街を形成するため、大学等の学術機関と地域が連携・交流する研究教育プログラムの実施や、市民利用が可能なキャンパス空間の整備等により、地域と大学との交流を活性化させ、柏の葉独自の文化・学術空間を形成する

重点施策

- 1) 地域連携の研究教育プログラムをつくる
- 2) 市民と大学が交流する場をつくる

- 千葉大学の園芸や予防医療を通した地域との交流
都市デザインスタジオやUDCKまちづくりスクールの展開
- UDCKを継承し、環境まちづくりの中心施設と体制整備
大学施設の市民利用促進と外周部に市民交流施設の整備

■研究機関の誘致策案

研究機関等の集積を図るためには次のような誘致策が考えられる。

- 大学や企業研究所に対する補助金や融資
- 税制優遇措置の整備・充実
- 土地等の斡旋手当
- 情報収集・情報提供

事例: Collaborative Innovation Center (CIC)

一概要一

場 所: アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ市、カーネギーメロン大学内
設 立: 2005年 面 積: 約1.2ha 4階建てのビル
創設者: カーネギーメロン大学カーネギーメロン博物館
地域の経済開発組織
立地企業数: 10 (Apple, Google, Intel等)

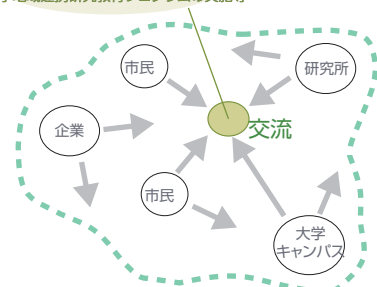


一研究機関誘致施策一

1. オフィス等の提供
カーネギーメロン大学との連携を望む企業にオフィスや研究所を提供
2. 施設建設への補助金 800万ドル 補助率 約30%
※州の税収入、コミュニティ開発助成金・カーネギーメロン大学資金・ピッツバーグ市地域産業振興資金より、800万ドル (総建設費2800万ドルの約30%)の融資

■地域と学術機関が連携・交流するキャンパスタウン

まちの中への産学・地域連携施設の設置
大学地域連携研究教育プログラムの実施等



サステナブルな移動交通システム

自転車や公共交通を中心に地球と人に優しい移動環境を整備する
次世代交通の総合的な実験成果を展開する

方針
1

世界の環境交通モデルとなる移動のシステムを整える

持続可能な環境型都市交通の先進的なモデルとして、TOD（公共交通志向型都市開発）の理念を基礎とした交通体系を組み立てる。また、柏駅周辺と機能的役割分担のもと連携し、都市拠点性の強化を図るため両者を結び都市交通軸の形成を図る。

重点
施策

- 1) TOD推進地区として位置づけ、新しい移動システムの実証実験と導入促進
- 2) 柏の葉地域と柏駅地域の2つのコアを結ぶ交通を整備

—— トランジットモール*や自転車道、第三世代自動車への対応など道路空間再編

—— LRTの実験線敷設やオンデマンドバス実験の成果を生かした交通システム、柏と柏の葉を結ぶ柏シンボル道路の検討

*トランジットモール：公共交通機関だけが通行できるようにした歩行者専用の道路

方針
2

歩行者と自転車の楽しい移動を可能とするネットワークをつくる 『自転車分担率の10%増加』

持続的な環境都市を実現するため、環境負荷の小さな自転車の最大限の活用と、歩くための環境の充実を図る。特に柏の葉エリアが自転車利用に適した立地条件であることを活かし、自転車の利用しやすい環境整備と利用の仕組みを確立、自転車利用の普及促進を図る。

重点
施策

- 1) 全ての幹線道路への自転車レーン設置などネットワーク整備
- 2) フリーサイクルや共同自転車などのシステムを導入
- 3) 地域資源を活かす魅力ある歩行空間とネットワーク形成

—— 区画整理区域内道路への自転車レーン設置

—— 共同自転車、サイクルシェアリングシステムの導入

—— キャンパス軸や緑園の道など歩行者ネットワークの強化

方針
3

自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 『自動車分担率の10%低下』

持続可能性の高い都市を実現するために、安易な自動車利用を低減するための取り組みの実施と、利用する際には環境に配慮した自然エネルギーの活用等を促進する。さらに市民へのPRによる意識向上を図る。

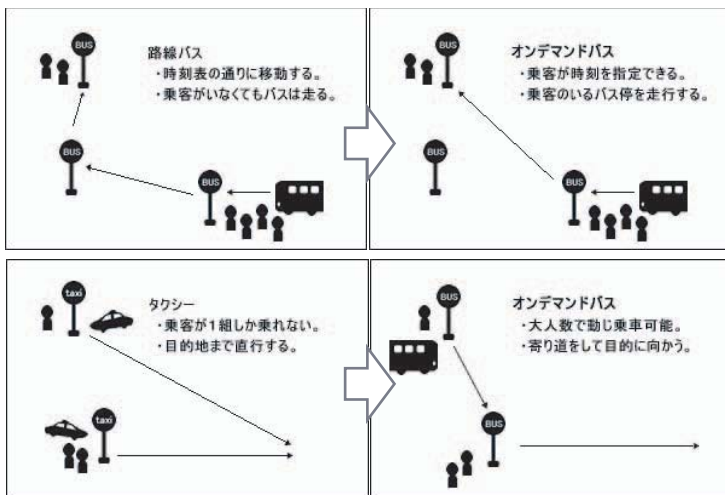
重点
施策

- 1) カーシェアリングの実施などにより自動車利用を削減
- 2) 環境に優しいエネルギーの利用

—— カーシェアリングの実施、P&Rの導入検討

—— 電気自動車の利用促進やBDFの導入

■実証実験が継続しているオンデマンドバスの仕組み



出典：東京大学設計工学研究室HP
<http://www.nakl.t.u-tokyo.ac.jp/demandbus/ODBEX.htm>

■自転車先進的の地域における自動車削減等の交通分担目標
および柏の葉エリアの自動車分担率削減目標案

	基準		自転車	自動車	バス・公共交通	徒歩
オーフス (デンマーク)	分担率	現況 1998	20%	50%	30%	—
		目標 2005	24%	46%	30%	—
ティルブルグ (オランダ)	トリップ	現況 1990	36%	36%	3%	25%
		目標 2000	42%	32%	6%	25%
		増減率	20%	-10%	100%	0%
ニルラインヴェ ストファーレン州 (ドイツ)	トリップ	自転車トリップ20%以上にする				
柏市 (PT調査)	分担率	現況 1998 (市全体)	17.2%	36.5%	1.4% (バス)	21.8%
		目標案 2018 (柏の葉エリア)	27.2%	26.5%	23.1% (鉄道)	

出典：最近のヨーロッパ自転車政策1998.3（財）自転車産業振興協会

方針 **1**

健康で快適な生活空間と環境行動「柏の葉スタイル」を定着させる

都市的魅力だけでなく自然的魅力をも享受できる環境の中で、大学と連携して先進的な健康管理や環境行動のためのプログラムを構築し、環境に優しく健康で快適に暮らすライフスタイルとしての「柏の葉スタイル」を実現し、発展させる。

重点
施策

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1)『健康・環境行動』へのアフォーダンス※を高める空間の整備 | —— 公園や公共施設の利用促進と大学や公的施設の一般開放 |
| 2)『ケミレス・タウン』の展開 | —— ケミレスタウンの実験成果を生かした健康指向住宅の普及 |
| 3)予防医学による新しい健康づくり | —— 千葉大などが連携する予防医療モデルの構築と普及 |
| 4)先端技術による健康増進システムを整備 | —— 東大などが連携する10坪ジムなどの健康モデルと普及 |

※アフォーダンス：人の行動に対する影響や行動のきっかけを与える、環境や空間の性質や情報

方針 **2**

多様な住み方、暮らし方ができる住宅を供給する 『キャンパスリンク住宅を10%』

家族世帯はもとより、キャンパスに関連した研究者や学生、留学生、シニア向けなど、キャンパスライフの各ステージの変化に対応し、短期・中期・長期、定住といった時間軸にも対応できる住まいや多様な住宅タイプを供給するための開発誘導を行う。

重点
施策

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1)大学等の研究者やクリエイター向けに「居住支援制度」を整備 | —— 若年向け住宅の整備、優遇制度による居住誘導 |
| 2)大学教育と連携したプログラムがついた住宅の供給 | —— カレッジリンク・シニア住宅の開発 |
| 3)駅前地区の住宅開発では10%以上のキャンパスリンク住宅 | —— 新規大規模開発地におけるキャンパスリンク住宅の誘導 |

方針 **3**

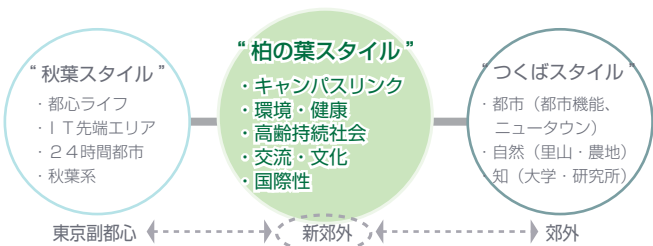
農や食の文化を育む空間と生活を充実させる

地元農家の協力と地域住民の参加のもと、農協、大学等とも連携し、身近に存在している農地の維持・活用と、地産地消を基本とした環境の中で、食を通じた健康と食文化の醸成を通して、体験や交流、新たな文化を育み、豊かな生活を実現する。

重点
施策

- | | |
|---------------------------|---|
| 1)「アグリビレッジ」など農を通じた生活空間を整備 | —— 菜園付き住宅の供給、市民菜園やクラインガルテンの整備
優良農地の保全と新しい営農方法の確立 |
| 2)農や食をテーマとする市民の学びの場 | —— 食に関する専門学校の誘致、ワンディシェフ等の教育の場 |

■TX沿線の生活スタイルと“柏の葉スタイル”



■千葉大学学生提案による大学教育と連携したプログラムが付いた住宅イメージ

大学で学びたい人に向け、学習プログラムの提供等、大学が連携する住宅

千葉大学と連携した環境健康生活（キャンパスライフ）



■千葉大学ケミレスタウンプロジェクト

快適な住環境の指針を提案するため、有害物質を低減した、シックハウス症候群を起こしにくい実証実験施設群を建設し、実際に入居生活してもらってシックハウス症候群の家族に及ぼす影響に関する官民共同研究



■農を通じた豊かな生活空間

菜園付き住宅のイメージ(都市環境デザインスタジオ2006より)



方針1

環境・健康行動を普及し質を高めるマネジメントを行う

環境の保全・育成や、健康で快適なライフスタイルの実現を図る取り組みを、地域全体で実施するために、住民を巻き込んだ取り組みを普及・促進するプログラムと、住民、地域企業、公共、大学等の協働により取り組みを推進するマネジメントシステムを構築していく。

重点施策

- 1) エコポイントを中心に、環境と健康的な活動や福祉などボランティア活動と企業活動を結ぶ ——— エコポイントやヘルスポイント等のプログラムの構築・実施
- 2) 地域の祭りや文化的な催事、世代間交流などの地域活動を活性化 ——— 地域団体と連携した文化・交流イベントへの参画や実施

方針2

安全や魅力を生み価値を高めるマネジメントを行う

安全な都市空間や地域の魅力や価値を創出し、長期に渡って維持・向上させていくためにも、地域のまちづくり団体等と協働のもと計画づくりからマネジメントを実施できる体制づくりと、都市の成長に合わせて発展するエリアマネジメントのプログラムを構築する。

重点施策

- 1) 地域まちづくり団体の参加で計画をつくり、公民連携で実施 ——— マネジメント組織や体制の整備と地域団体と連携した計画づくり
- 2) 環境整備などまちづくり事業やプロモーション事業を継続的に実施 ——— マネジメント事業の展開

方針3

公民学の連携で自立したマネジメントを行う

持続可能性の高い都市の形成を目指し、住民やNPO、企業、行政、研究機関等の多様な主体が長期にわたって協働による都市づくりを進めていくことが可能な環境を整え、自立的なマネジメントを進め、より魅力的な都市形成を図っていく。

重点施策

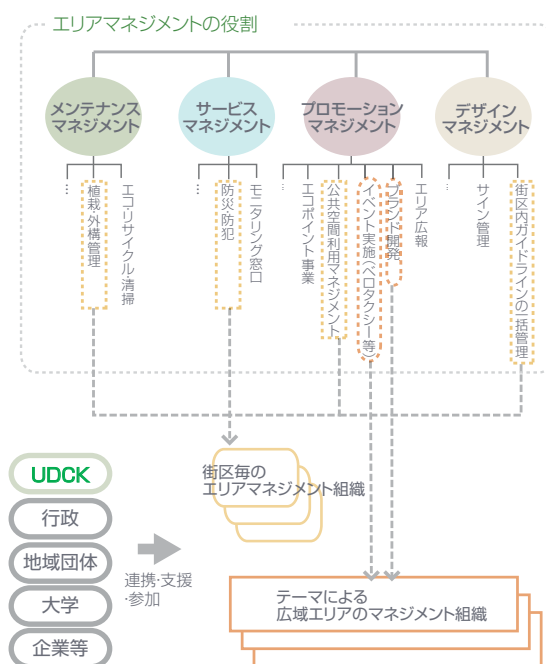
- 1) 住民、企業、地域活動団体との連携体制を確立 ——— 大学・企業等と地域機関との連携体制
- 2) 企業、自治体、大学の連携による構想のフォローアップ体制の構築 ——— 企業、自治体、大学による継続的な意見交換と構想フォローアップ体制

■エリアマネジメント組織の役割イメージ

<p>メンテナンス マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 植栽・外構空間の一括管理 ● 清掃・エコリサイクル等の管理運営 	<p>サービス マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モニタリング窓口 ● 市民/パトロール隊の支援、防犯・防災 	<p>プロモーション マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エコポイント事業 ● 柏の葉キャンパスブランドの開発と販売 ● イベント企画・運営 ● エリア広報・宣伝 	<p>デザイン マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デザインガイドラインの作成と管理 ● 街区内サインの管理(地域デザイン企画)
--	--	--	---

■エリアマネジメント組織の体制イメージ

エリアマネジメントの役割に応じて街区や広域エリア毎の組織を立ち上げ、各団体との連携のもと計画策定とマネジメント事業を実施する



質の高い都市空間のデザイン

先進の環境空間計画とデザインマネジメントにより都市と生活の質を高める
“いい街がいい人(研究者、生活者)を呼ぶ”

方針 1

キャンパスのように緑溢れる自由な都市空間をつくる

柏の葉エリア全体を「緑のグラウンド」と捉え、住む人訪れる人誰もが自由に活動を展開できる、建物と外部空間が混じり融合した、キャンパスのような空間と街並を形成する。

重点施策

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1) 大中小の多様なオープンスペースの設置と連続 | —— 公共空間(公園や広場、施設)デザインコンペを実施する |
| 2) 柏独自の魅力的な街並形成のための規制 | —— アーバンデザイン方針やデザインガイドライン、デザインレビュー |
| 3) ランドスケープデザイン*の徹底 | —— 地域の自然条件を踏まえた植栽の種類や配置の決定 |

*ランドスケープデザイン：人工環境と自然環境の調和を目指し、外部空間をトータルにデザインすること

方針 2

大学が街へ広がる学園の道(University Axis)をつくる

柏の葉キャンパス駅、千葉大学、東京大学を結ぶL型の都市空間を「University Axis」とし、それに沿って両大学の施設を配置し、隣接施設も協調して、国際キャンパスタウンの象徴となる空間を形成する。

重点施策

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1) キャンパスタウンの風格と賑わいを表出する駅前通り | —— 道路空間の改善と沿道の街並みの形成 |
| 2) 大学内に街へ開いた都市空間を整備する | —— 千葉大正門の地域連携空間などゲートづくり
東大インターナショナルロッジによる街並みの形成 |

方針 3

緑の中に多様な活動が見える緑園の道(Green Axis)をつくる

こんぶくろ池公園、147・148 街区、駅、151 街区を貫き、区画整理区域の小学校・公園用地に至る経路と沿道部分を「Green Axis」とし、親密で快適な環境健康都市を象徴する都市空間を形成する。

重点施策

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| 1) 新しい公共空間を整備する | —— 緑園の道にある公園と学校は環境をテーマに質を高くデザインする |
| 2) 屋外の生活空間を形成する | —— 緑園の道には市民などの活動が見えるように施設を配置する |
| 3) 生態系を回復する森を形成する | —— 緑園の道に沿う建物や道路の十分な緑化と広場など活動の空間を提供する |

方針 4

UDCKを中心にアーバンデザインを実現する

柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)を核に、キャンパスタウンにふさわしい空間計画を定め、仕組みとプロセスとともに実現する。

重点施策

- | | |
|-------------------------|--|
| 1) 柏の葉地域のマスターデザインを定める | —— 国際キャンパスタウン構想を具体的にして地域や市民と共有する
柏市景観形成重点地区の拡大などの条例化
個別事業でのアーバンデザインの実現 |
| 2) 公有地や公的施設の先導役割とデザイン水準 | —— 区画整理区域内での機能やデザインの誘導
保留地及び公有地の売却条件づくり
デザインガイドラインやデザインレビューの体制 |

方針 5

アーバンデザインを柏市域や沿線地域へ広める

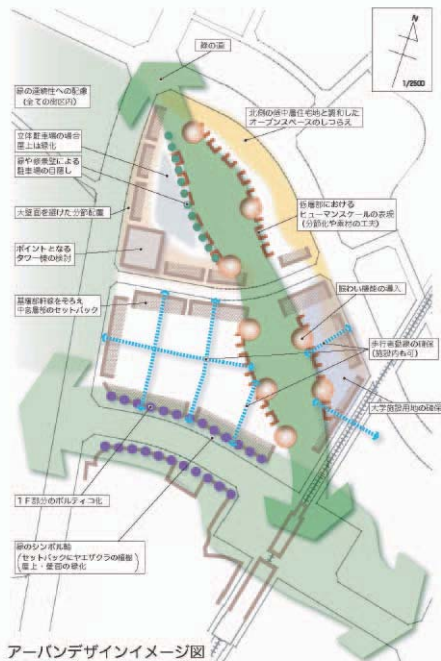
柏の葉キャンパス駅周辺を中心に展開するアーバンデザインを、都市構造の文脈に沿って、周辺市街地やTX沿線各地、柏市市域全体に連鎖・波及させる。

重点施策

- | | |
|------------------------|---|
| 1) 郊外の住宅や商業施設の柏モデルをつくる | —— ロードサイド開発の新しい環境デザイン
戸建住宅や団地の再生型の環境デザイン |
| 2) 新しい公共空間を実現する | —— ユニットハウスを利用した市民利用施設の設置 |

■魅力的な街並み形成のためのデザイン誘導

地区や街区、沿道など面的まとまりを単位としてアーバンデザイン方針やデザインガイドラインを定め、デザインレビューによる調整と誘導を図る。



147-148街区のアーバンデザイン方針図



アーバンデザイン方針に沿った西口駅前線イメージ



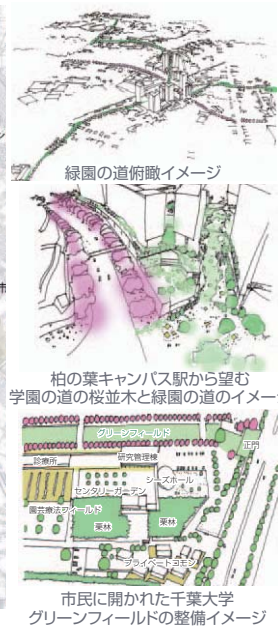
ららぽーと柏の葉のデザインガイドライン

■キャンパスタウンの象徴となる「学園の道」と環境健康都市を象徴する「緑園の道」

風格と賑わいを表出した街並み形成と街に開いた大学施設による、学園の道を形成する。環境をテーマにデザインされた公共施設や、連続した緑、生態系ネットワークによる、緑園の道を形成する。



学園の道と緑園の道



市民に開かれた千葉大学グリーンフィールドの整備イメージ



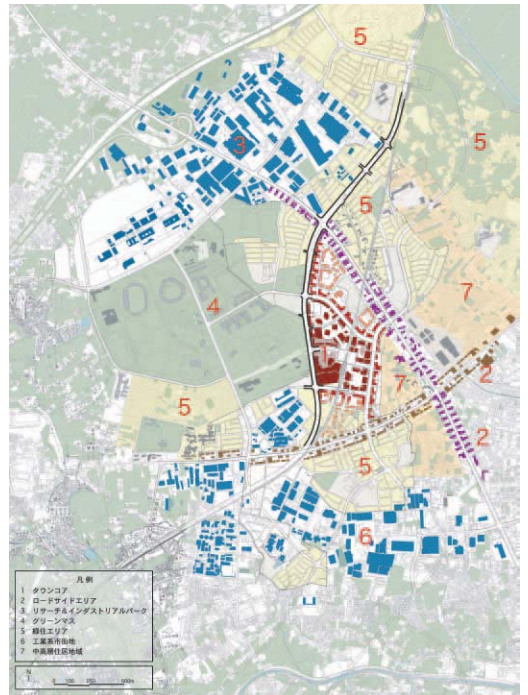
市民に開かれ、街並を形成する東京大学柏第2キャンパスインターナショナルロッジのイメージ



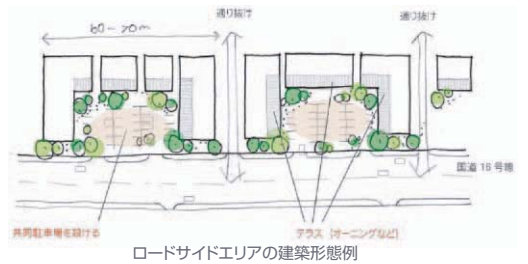
緑が連続し、活動が表出する緑園の道のイメージ

■特性に応じたエリア分けによるデザイン

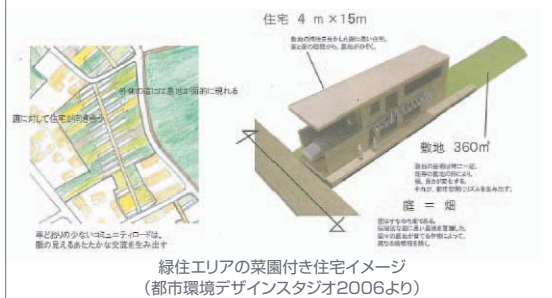
土地利用、基盤施設、景観構造、自然や地形、周辺状況などから面的まとまり(エリア)を設定し、それを単位としてアーバンデザイン方針等を定める



○エリアに応じたデザイン例(学生提案)
郊外の新しい建築形態、環境デザインの柏モデルをつくる。



ロードサイドエリアの建築形態例



緑住エリアの菜園付き住宅イメージ (都市環境デザインスタジオ2006より)

■新しい公共空間

市民のニーズに応じて空間の再生利用が可能な新たな公共施設を設置する。ユニットハウスによる新しい公共空間を、実証実験から展開させる。



小さな公共空間イメージ

方針
1

国際学術研究都市をアピールする

柏の葉国際キャンパスタウンにおける公民学が一体となったイノベーションフィールドの取り組みや文化的地域価値を国内外に発信し、世界からの国際的研究機関や各種人材の集積を促進する。

重点
施策

1) リサーチコミッションを設置する

—— 企業や研究者、研究機関へのサポート体制の整備

2) 街の価値や魅力を高める都市プロモーションを実施する

—— 大学や企業のプレゼンテーションやプロモーションの場の確保
—— 企業や投資家への働きかけとPRの実施
—— コンベンションの誘致
—— 文化や芸術の活動や展示空間の充実

方針
2

実証実験の支援と実現プログラムを提供する

産学連携の各種実証実験等の取り組みをバックアップしていくとともに、異種事業のマッチアップを進め事業の相乗効果を高めるなど、具体的な実証実験を重ねながら持続可能な環境モデル都市としてのスパイラルアップ*を図っていくプログラムを提供する。

重点
施策

1) 研究者と企業、国や自治体、さらに地域や市民が参加する協働研究を増やす

—— マッチングや情報提供などの研究支援体制
—— 地域や市民との協働、エリアマネジメントとの連携

2) 実証実験への補助や寄付などの支援制度

—— 国とも協働して、先進的な環境実験の導入エリアとする
—— 長期的な地域でのモニタリングやデータベースの整備

*スパイラルアップ：計画・実施・評価・改善を繰り返し目標に向かって向上を図るプロセス

■ 街の魅力を高める都市プロモーション

街の魅力と価値の創出とPRのために、文化関連、産業や学術関連など様々な分野の都市プロモーションを実施する。

○ペロタクシーの実証実験によるプロモーション概要 (プレスリリースより)

■【目的】ペロタクシーの目的は「環境への配慮」「自然の素晴らしさの再発見」

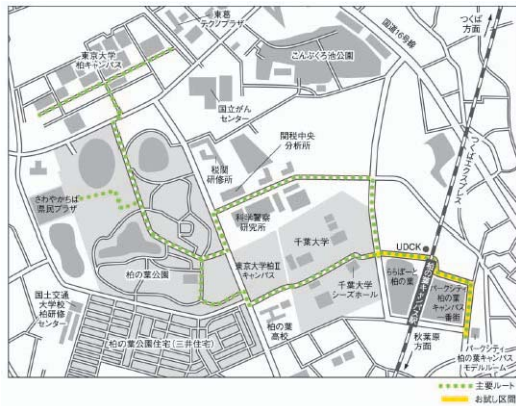
今回のペロタクシー走行には、大きくふたつの目的があります。ひとつめは、自転車の利用を促進することで排気ガスの排出を減らし、自然を守ることです。ペロタクシーを利用する人や、ペロタクシーを通じて日頃から自転車を利用する人が増えることで、環境にやさしい暮らし方の定着を図っていきます。ふたつめは、いつもなら見過ごしてしまう柏の葉キャンパスエリアの自然や各施設を、ペロタクシーでゆっくりと見てもらうことです。そこからこの街の素晴らしさを再発見し、自分の街を好きになる人が増えていくことが、未来の国際キャンパスタウンへと繋がっていくものと思います。



- 【走行概要】
- 期間 / 2007年10月19日(金)～12月16日(日)
 - 時間 / 毎日10:00～17:00 (ただし雨天時は運休となります)
 - 定員 / 2名

- 【乗車料金】
- お1人様(1回30分以内)
 - 小学生以上 200円
 - 中学生以上 300円
 - ※30分以上ご乗車の場合は15分ごとに上記料金が加算されます。
 - ※以下の区間はお試し区間として半額となります。

- 〈お試し区間〉
- ・柏の葉キャンパス駅前～パークシティ柏の葉 モデルルーム前
 - ・柏の葉キャンパス駅前～千葉大学シーズホール前



■ 産学連携による実証実験

異なる分野の研究者・企業・大学が連携し、実際の都市環境をフィールドとして、地域の協力を得た実証実験が展開されている。サポート体制も充実させ、これらの共同研究を増やし、実証実験の活性化と本格導入への展開を図る。

□ KACITEC 『IT技術の実証研究』

- 高齢化社会、さらに豊かな暮らしに向けて、障害の有無、年齢、経験、言語に拘らず活動できる環境の整備、犯罪を抑制し、移動時の安全が24時間確保された街づくり
- ユニバーサルデザインの理念に基づいた新たな都市インフラモデルの構築
- 実証実験による有効性、事業性の検証→全国への普及



実証実験例

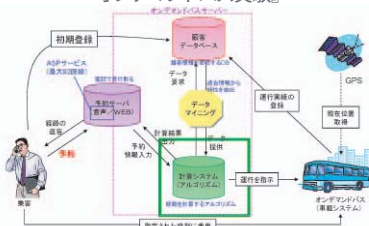
1. 屋外無線LANエリアネットワーク
2. カメラ追跡型セキュリティシステム
3. ウェアラブル生体・環境情報統合システム
4. 無線LANによる安価な安全確認システム
5. オンデマンドバス・システム

参考:KACITEC HP <http://www.kacitec.org/index.html>

□ 柏スマートモビリティネットワーク

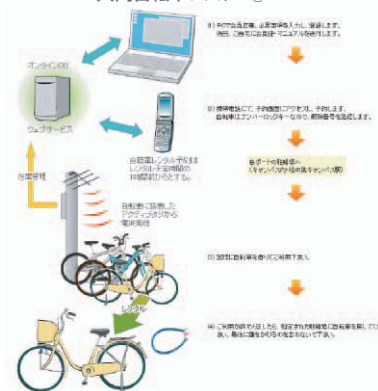
- 環境に負荷の低いモビリティ
- 市民参加型のソーシャルネットワークを用いた実験
- 環境に優しく健康な都市生活を実現する新しいサービス

『オンデマンドバス実験』



出典:東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 大和裕幸研究室 モビリティマネジメント研究チームHP <http://www.naki.t.u-tokyo.ac.jp/demandbus/index.htm>

『共同自転車システム』



出典:東京大学柏キャンパスにおける通勤・通学マネジメント事業 ポータルサイトHP <http://www.st-kashiwa.jp/index.html>

kashiwanoha International Campus Town Initiative
柏の葉国際キャンパスタウン構想【概要版】

柏の葉国際キャンパスタウン構想検討委員会
(千葉県+柏市+千葉大学+東京大学)
平成20年3月

kashiwanoha International

TEP

TX ENTREPRENEUR PARTNERS
TXアントレプレナーパートナーズ

contact@tepweb.jp
http://www.tepweb.jp/



〒277-0871 千葉県柏市若葉 173 番地 8 柏の葉キャンパス 151 街区 B 棟 -SB-5
(パークシティ 柏の葉キャンパス一番街 1 階 CAFE AGORA 内)
Kashiwanoha Campus Block 151 TowerB-SB-5, Wakashiba173-8
Kashiwa-shi, Chiba-ken, 277-0871, JAPAN
(Park City Kashiwanoha Campus Ichibangai 1F, CAFE AGORA)



〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1 丁目 13 番 5 号 SS スマートビル
ちよだプラットフォームスクエア ANNEX06
Chiyoda Platform Square ANNEX06, SS Smart-Building,
1-13-5 Iwamoto-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0032 JAPAN



(Oishi & Company Los Angeles office)
707 Wilshire Blvd, Suite 5320, Los Angeles, CA 90017, USA

TX 沿線エリア創業支援プロジェクト
TX area start-up support project

TEP

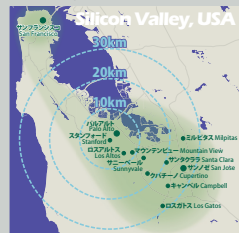
TX ENTREPRENEUR PARTNERS
TXアントレプレナーパートナーズ



WE HAVE THE ENVIRONMENT

つくばエクスプレス (TX) 沿線の『TXアントレプレナーズ・ベルト』には、約60kmの範囲の中に、TX線各駅やJR常磐線各駅を中心とした広大な商業環境と豊かな緑や自然環境が広がっています。

The [TX Entrepreneurs Belt] is a 60 km stretch of land along the Tsukuba Express (TX) rail line linking an expansive commercial environment, and centering on the station areas of the TX rail line and the JR Joban line. It is also blessed with a delightful natural environment with an abundance of greenery.



昔は広に広がる農地だったものの、今や名だたる世界企業の集積地となり、世界のIT業界を牽引しているアメリカ・カリフォルニアのシリコンバレーも、「TXアントレプレナーズベルト」とほぼ同じ、約60kmの距離に広がっています。

シリコンバレー周辺への主な集積

- 学術機関：スタンフォード大学、カリフォルニア大学、カーネギーメロン大学シリコンバレーキャンパス など
- 企業：アドビシステムズ、アップル、シスコシステムズ、eBay、Google、ヒューレットパカード、インテル、オラクル、サン・マイクロシステムズ、Yahoo! など

The TX Entrepreneurs Belt covers a range of about 60 km, roughly the same as Silicon Valley in California, USA, a region once covered in orchards that became the home of a concentration of global enterprises which now drive the world's IT industry.

- Major facilities in the Silicon Valley region
 - Academic facilities: Stanford University, the University of California, Carnegie Mellon Silicon Valley, etc.
 - Business: Adobe Systems, Apple, Cisco Systems, eBay, Google, Hewlett-Packard, Intel, Oracle, Sun Microsystems, Yahoo!, etc.



多くの先端技術や先進的研究が集まるこのエリアではアントレプレナースピリットに燃える起業家も多く、彼らを支えるインキュベーション施設も整っています。

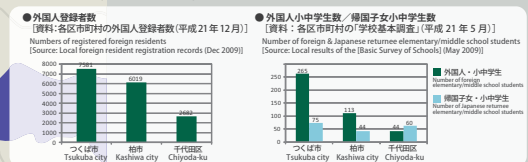
In an area that is home to a concentration of cutting-edge technologies and research, there are also many people with a dream of starting a new company. The area also has several incubation facilities to fan the flames of this entrepreneurial spirit.

WE HAVE THE SPIRIT

WE HAVE THE PEOPLE

このエリアの研究者や博士号取得者の人数は国内随一で、外国人居住者や海外居住経験のある家族も多く、知的欲求が高く、国際的視野を持つ人が多くお住まいです。

This area contains one of the largest number of researchers and people with doctoral degrees in the country. There are also many residents from other nations, as well as many Japanese families with experience living abroad. It is home to many people with a great intellectual appetite and an international perspective.



●筑波大学
研究者: 1,730人(含外国人研究者) / 留学生: 1,697人 / 学生数: 約10,051人
大学発ベンチャー(業種): 81社(2008年度:76社,全国2位)
●産業技術総合研究所(つくばセンター)
研究者: 2,275人(含外国人研究者)
●産総研技術移転ベンチャー等(業種): 104社

●筑波大学(性キャンパス)
研究者: 1,730 (including foreign researchers)
Foreign students: 1,697 / Student population: approx. 10,051
●University-generated ventures (total): 81 Companies (2008: 76 companies, 2nd in Japan)
●National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST) (Tsukuba Center)
Researchers: 2,275 (including foreign researchers)
●AIST (Organization total) / Venture spin-offs (total): 104 companies

●東京大学(性キャンパス)
研究者: 330人 / 大学院学生: 研究学生数: 1,767人
●千葉大学(環境健康フィールド科学センター)
研究者: 28人
●東京理科大学(野田キャンパス)
研究者: 362人(含外国人研究者)

●The University of Tokyo (Kashiwa campus)
Researchers: 330 / Graduate students, Research students: 1,767
●Chiba University (Center for Environment, Health and Field Sciences)
Researchers: 28
●Tokyo University of Science (Noda campus)
Researchers: 362 (including foreign researchers)

●千葉大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 9社
●東京理科大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 15社
●Chiba University (all campuses)
University-generated ventures (total): 9
●Tokyo University of Science (all campuses)
University-generated ventures (total): 15

●千葉大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 9社
●東京理科大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 15社
●Chiba University (all campuses)
University-generated ventures (total): 9
●Tokyo University of Science (all campuses)
University-generated ventures (total): 15

●東京大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 125社(2008年度全国1位)
●デジタルハリウッド大学(金キャンパス)
大学発ベンチャー(業種): 19社
学生数: 1,003人

●The University of Tokyo (all campuses)
University-generated ventures (total): 125 (1st in Japan, 2008)
●Digital Hollywood University (all campuses)
University-generated ventures (total): 19
Student population: 1,003

各データは全て2010年7月時点において取得可能な最新の情報により記載
All data is the latest available as of July 2010.



WHY CAN'T WE DO IT?

埼玉県
Saitama

茨城県
Ibaraki

千葉県
Chiba

東京都
Tokyo

TX ENTREPRENEUR PARTNERS

設立目的 MISSION

TXアントレプレナーパートナーズ (TEP) は、以下の目的のもと、「TXアントレプレナーズ・ベルト」を中心として活動していきます。

- (1) 健全な日本経済の持続的成長を促すために、最先端技術の集積地であるつくばエクスプレス (TX) 沿線を中心に、アントレプレナースピリットを醸成し、より多くの起業家、ベンチャー企業を育成、支援いたします。
- (2) 当沿線の研究者・起業家と、メンター・エンジェル等ビジネスパートナーのチーム組成をサポートし、起業家を支援する環境を整備することにより、ベンチャー創業や成長を助ける志を持つ人たちの地域コミュニティを創り、成功モデルとなるようなベンチャー企業を輩出し、わが国のアントレプレナー活動の中心的役割を担います。
- (3) 国際的環境に恵まれた当沿線で海外との交流を積極的に行い、地域の活性化を図ります。

TX Entrepreneur Partners (TEP) takes aim as follows, focusing activities mainly in the areas along the TX rail line, the [TX Entrepreneurs Belt].

- (1) In order to promote the continuing growth and vitality of the Japanese economy, the purpose of this organization is to stimulate entrepreneurial spirit, and to support and train a greater number of entrepreneurs and venture enterprises, focusing mainly on the region adjacent to the Tsukuba Express (TX) rail line that is home to a concentration of cutting-edge technologies.
- (2) We will prepare the environment to support entrepreneurs and facilitate the formation of business partner teams comprised of researchers, entrepreneurs and mentor angels in the area along the TX rail line. Our goal is to take a central role in the entrepreneur activities in Japan by producing start-ups to become a model of success and also by developing a local community of people with a desire to help the founding and development of start-ups.
- (3) Our activities can contribute to stimulation of the region as a whole, through pro-active interaction with foreign organizations and individuals, taking advantage of the global vision and attitude of the TX rail line area.

活動計画 ACTIVITIES

TXアントレプレナーパートナーズ (TEP) は、この目的を達成するため、以下の活動を展開していきます。

- (1) 創業チーム組成・強化支援
研究者・起業家とメンター・エンジェル等ビジネスパートナーのマッチング、その他の人的資源の紹介等による創業チーム組成・強化の支援 (研究者・起業家への助言、エンジェル紹介、経営指導、事業計画のブラッシュアップ、人的資源紹介等)
- (2) ネットワーキングイベント
具体的事業の範囲にとどまらない、起業家のための幅広く密なネットワーク構築の支援 (TEP会員全体による懇親会、代表・副代表主催ランチ、海外インキュベーション機関とのネットワーキング等)
- (3) ワークショップ
起業家への創業上・経営上に必要な知識の提供、個別相談等 (専門知識を有する支援者との個別相談、個別テーマセミナー等)
- (4) 対外的認知活動支援
メディア等の紹介による起業家の対外的認知活動の支援 (メディア紹介、PR・デザイン支援、ビジネスプラン発表会等)

To achieve these goals TX Entrepreneur Partners (TEP) plans to conduct the following activities.

- (1) Formation and support of business start-up teams
Supporting the formation and strengthening of business start-up teams by matching business partners, such as researchers, entrepreneurs and mentor/angels, and introducing other human resources. (Advice to researchers and entrepreneurs, introduction of angels, business operation guidance, brush-up of business plans, introduction of human resources, etc.)
- (2) Networking events
Supporting the formation of close networking connections over a wide range for entrepreneurs, extending beyond the range of a specific business. (TEP member get-togethers, Lunches sponsored by the President / Vice-president, networking with overseas incubation facilities, etc.)
- (3) Workshops
Offering entrepreneurs individual consultations and knowledge or information needed to start up and operate a business. (Individual consultations and seminars on specific themes with angels or supporters who possess expert knowledge.)
- (4) Support of activities to gain outside recognition
Supporting activities to increase recognition for entrepreneurs from the outside world through introductions to media, etc. (Media introductions, PR / design assistance, business plan presentation meetings, etc.)

成長支援 GROWTH SUPPORT

TXアントレプレナーパートナーズ (TEP) では、次の3つのステージでアントレプレナー会員の皆様を支援していきます。

TX Entrepreneur Partners (TEP) provides support for the Entrepreneur Members according to the following 3 stages.

STAGE 1

課題やニーズの把握 ・個別相談

事業・経営における課題がまだ明確ではない (入会時等)、またはサポート会員による個別相談は行っているが、エンジェル例会でプレゼンを行うレベルには至っていない段階。

- ・代表主催ランチへの参加
- ・個別ヒアリング
- ・勉強会への参加

Understanding issues and needs ・Personal consultation

The stage before the specific problems of business operations become clear (new member enrollment, for example); or, the stage of personal consulting with Support members, when more development is needed before making a presentation to the Angel Meeting.

- ・ Participation in a Leader's Lunch
- ・ Individual discussions
- ・ Participation in study groups

STAGE 2

エンジェル例会での プレゼンテーション

担当エンジェル会員や担当サポート会員と共に、エンジェル例会での発表に向けて、ビジネスプランのブラッシュアップを行っていく段階。

- ・エンジェル例会への申込み
- ・「事業概要書」への記入
- ・ビジネスプランのブラッシュアップ

Presentation to the Angel Meeting

The stage at which the member works with the responsible Angel and Support members to polish and refine the business plan in preparation for a presentation to the Angel Meeting.

- ・ Application to the Angel Meeting
- ・ Writing the Company Synopsis
- ・ Polishing the business plan

STAGE 3

エンジェル例会後の フォローアップ

エンジェル例会を経て、投資、或いは販路開拓等の具体的なフォローアップを、担当エンジェル会員と共に継続して行っていく段階。

- ・フォローアップミーティング (出資、ビジネスパートナーとのマッチング等)

Follow-up after the Angel Meeting

The stage of continuing work with the responsible Angel member to follow-up on the specific details of the investment or development of sales routes, etc.

- ・ Follow-up meetings (Matching of investors, business partners, etc.)

日本を代表する
モデルベンチャーへ

Becoming a Japanese
model venture

TXアントレプレナーパートナーズ (TEP) が毎月開催している、定期イベントについてご紹介します。

TX Entrepreneur Partners (TEP) holds regular events every month.

代表主催ランチ

Leader's Lunch



3社ほどのアントレプレナー会員と、TEP役員およびアントレプレナー会員世話人が出席する、フランクなランチミーティングを、毎月1回開催しています。

ここではアントレプレナー会員の皆様の事業内容、現状、課題、TEPに期待する支援などをヒアリングし、TEP役員や世話人との意見交換はもちろんのこと、異業種の起業家との交流による刺激やアイデアが得られることもあります。ランチ後は、希望に応じて初期サポートの体制を決め、定期的なプレストを行うことで、より詳細に何が課題で、どのような支援が可能かを考えていきます。

Held once a month, and attended by 3 or so entrepreneur members, a TEP executive and entrepreneur member facilitators, to provide a venue for open communications over lunch.

Hearings are held on the content of the business, current status, issues, and support desired from TEP by the entrepreneur members, as well as an exchange of opinions of the TEP executive and the facilitators. These lunches are also a source of stimulation and ideas through the interactions of entrepreneurs from different fields. After lunch, an initial support system is determined, if desired. By conducting regular brain-storming, the participants can discuss the issues in greater detail and think about what kinds of support can be offered.

エンジェル例会

Angel Meeting



毎月1回、毎回2社ずつのペースで開催している、いわばアントレプレナー会員の事業オーディションです。

支援チームと共に、約1ヶ月をかけてビジネスモデルのブラッシュアップを何度も繰り返し、当日はエンジェル会員の皆様を前に、プレゼン約20分、質疑応答約20分を行い、最後にエンジェル会員の皆様が支援へのご興味を挙手します。ブラッシュアップの過程で得られる貴重な発見・経験はもとより、挙手のあった場合は、投資に限らず、起業家の皆様と同じ目線で経営参画する覚悟も背負うメンバーであり、ともに戦う同志を得られることとなります。

Held once each month with presentations from 2 businesses each time, and can be called the "Business Audition" of the entrepreneur members. The business model is polished over and over by working with the support team for a period of about 1 month, in preparation for a 20 minute presentation to the Angel Meeting, followed by a 20 minute question and answer period, with the goal of exciting the interest and support of the Angel members. In addition to the valuable insights and experience gained from the polishing process, if an offer of Angel support is obtained, the support is not limited to financial investment. The Angels are also mentors who are able to work shoulder-to-shoulder with the entrepreneur on the actual operations, so the entrepreneur also obtains a comrade-in-arms.

ORGANIZATION

組織 ORGANIZATION

代表：村井勝 **PRESIDENT : Masaru MURAI**



コンパック日本法人初代代表取締役社長。その後、国内外のベンチャー企業10数社の設立に関与。Entrepreneur of the Year Japan初代審査委員長。First President of Compaq Computer Japan. Later, participated in the establishment of more than 10 start-ups, both in and outside Japan. Chairman of the Review Committee for Entrepreneur of the Year Japan.

副代表：増田一之 **VICE PRESIDENT : Kazuyuki MASUDA**



日本興業銀行にて投資銀行部門・IT部門部長・海外現地法人社長。バイオベンチャー、ナノテクベンチャー他創業。ベンチャー論で学術博士（早稲田大学）。Filled roles in Investment Banking, IT and Overseas offices for the Industrial Bank of Japan. Founder of Bio-tech start-up, Nano-tech start-up and others. Ph.D. in Entrepreneurship (Waseda University).

監事 **COMPTROLLER**

顧問 **ADVISER**

アドバイザーボード **ADVISORY BOARD**

本会の効率的、効果的な運営についてのアドバイス等を行います。

Advisory Board provides advice on the effective and efficient operation of this organization.

【メンバー】
経済産業省 関東経済産業局
茨城県 / 千葉県 / 東京都
柏市 / つくば市
(株)中小企業基盤整備機構 関東支部
(財)千葉県産業振興センター
柏商工会議所
(株)つくば研究支援センター

【Members】
Kanto Bureau of Economy, Trade and Industry
Ibaraki Prefecture / Chiba Prefecture / Metropolis of Tokyo
Kashiwa City / Tsukuba City
Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, Kanto Office
Chiba Industry Advancement Center
Kashiwa Chamber of Commerce and Industry
Tsukuba Center, Inc.

連携組織 **RELATED ORGANIZATIONS**

国内外におけるインキュベーション施設、大学、研究施設、地域組織等と連携して活動を行います。

Collaboration and active participation will be provided with Related Organizations such as incubation facilities, universities, research institutes and local organizations both inside and outside Japan.

事務局 **SECRETARIAT**

会員 MEMBERSHIP

各会員の詳細内容およびご入会申込み等については、次頁またはTXアンブレプレナーパートナーズ(TEP)公式ホームページ (<http://tepweb.jp>) をご覧ください。

For details on each membership category and enrollment, please refer to the following pages or visit the TX Entrepreneur Partners (TEP) official website (<http://tepweb.jp>).

アンブレプレナー会員 **ENTREPRENEUR MEMBERS**

エンジェル会員 **ANGEL MEMBERS**

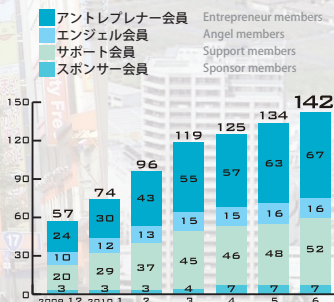
サポート会員 **SUPPORT MEMBERS**

スポンサー会員 **SPONSOR MEMBERS**

会員数の推移

(2009.11.19設立時～2010.7.1時点)

【Membership trends】
(From inauguration on 19 Nov 2009 through 1 Jul 2010)



会員 MEMBERSHIP

TXアンブレプレナーパートナーズ (TEP) は、当会の趣旨に賛同し、支援を受けたいと考える起業家の皆様や起業を目指す皆様、或いは、創業支援活動に様々な形でご参画いただける会員の皆様に募集しています。

アンブレプレナー会員 **ENTREPRENEUR MEMBERS**

ベンチャー企業および起業家予備軍で、本会に何らかのサポートを受けたいと考える皆様。また、起業家間の連携を強化し、相互に切磋琢磨しながら更なる成長を望んでいる皆様。

エンジェル会員 **ANGEL MEMBERS**

アンブレプレナー会員に対し、創業や成長を助けるメンター活動、エンジェルとしての投資活動、企業経営における多角的な課題解決支援、等が可能な個人で、起業家、ベンチャー企業へのシード・アーリー投資を行う意思のある皆様。

サポート会員 **SUPPORT MEMBERS**

本会の目的や事業に共感し、主としてアンブレプレナー会員に対し、経理・財務面の支援、特許取得支援、法務等に関する各種支援、社会的認知活動の支援、プレゼンテーションの支援、翻訳・通訳支援など、専門的技術や知識による支援が可能な個人の皆様。本会の目的や事業に共感し、本会の活動に対し事務的支援などを行うことが可能な個人の皆様。将来、起業やエンジェルをめざす個人で、サポート活動を通じてそのノウハウを習得したいと考える皆様。

スポンサー会員 **SPONSOR MEMBERS**

本会の目的や事業に共感し、本会の活動に対し資金的支援を行いたいと考える皆様。また、TX沿線という対象エリアが明確な本会の活動を通じて、地域貢献・社会貢献を行いながら営業活動を行いたいと考える皆様。

TX Entrepreneur Partners (TEP) is looking for members who share the vision of this organization. Entrepreneurs who would like to take advantage of the support that TEP can offer, those who hope to start a business in the future, and anyone who can contribute to the various support activities for founding a new enterprise are invited to join.

[Enrollment fee: 2000 JPY / Annual fee: Free]

Members of venture enterprises, or potential entrepreneurs, who would like to receive support from this organization. Also, entrepreneurs who want to develop themselves further and work diligently while making stronger connections among other entrepreneurs.

[Enrollment fee: 5000 JPY / Annual fee: 60,000 JPY (5,000 JPY / month)]

Individual members who can provide mentoring to assist the business start-up and growth of the Entrepreneur members, act as angels for investment activities, and/or help with problem-solving from a variety of perspectives for managing enterprises, and with a desire to provide seed/early investment to entrepreneurs and venture enterprises.

[Enrollment fee: 2000 JPY / Annual fee: Free]

Individual members who share the goals of this organization and who can provide support to the Entrepreneur members in the form of special knowledge or skills, such as assistance with accounting, finance, the obtaining of patents, legal aspects, social recognition, presentations, translation and interpretation. Individual members who share the goals of this organization and who are willing to support the office work for the activities of this organization. Individual members having a desire to acquire the know-how to start a business or become an angel through the support activities.

[Enrollment fee: Free / Annual fee: 50,000 JPY per unit]

- ・ 20口以上：プラチナスポンサー会員
- ・ 10～19口：ゴールドスポンサー会員
- ・ 4～9口：シルバースポンサー会員
- ・ 1～3口：スポンサー会員

Members who share the goals of this organization and who would like to provide financial support for the activities of the organization. Also, those who wish to operate with contribution to the local area and/or the society through the activity of this organization specifically in the area along the TX line.

FUTURE DESIGN CENTER

一般社団法人 フューチャーデザインセンター

住 所：
〒277-0871
千葉県柏市若柴 173 番地 8 柏の葉キャンパス 151 街区 B 棟 -SB-5
(パークシティ柏の葉キャンパス一番街・エントランスパティオ正面 1F
CAFE AGORA 内)

Address:
Kashiwanoha Campus Block 151 TowerB-SB-5, Wakashiba173-8
Kashiwa-shi, Chiba-ken, 277-0871, JAPAN
(Park City Kashiwanoha Campus Ichibangai, Entrance Patio Facade 1F
CAFE AGORA)



ごあいさつ

GREETING

日本の課題は世界の課題

現在、我が国は環境・資源問題、食糧問題、医療問題、教育問題など、様々な課題を抱えています。世界第2位の経済大国である我が国は、豊かで成熟した社会を手に入れたと同時に、世界に先んじてこれらの課題に直面しています。そしてこれらの課題は、我が国の国家的課題であるばかりではなく、近い将来、必ずや先進国の仲間入りをするであろう中国やインドなどのアジア諸国をはじめとし、いずれは世界中が共通に抱えることとなる課題です。人類が現在の社会システムを維持していくためには、まだどの国も解決したことの無い、これらの課題を解決していくことは必須です。

我が国は過去に公害問題を経験し、高い問題意識と優れた技術力によって、世界に先んじて課題解決を成し遂げた実績を持ちます。現在でも、我が国の知力・技術力は世界の中でも非常に高く、これを駆使すればこれらの国家的課題を解決していくことは可能です。我が国は、持っている知力・技術力を生かし、さらには世界中から優れた知と技術を結集して、これらの課題を解決する「先進モデル」を、世界に先んじて示すことが今まさに求められています。これは将来的な世界の課題を解決することに繋がると同時に、我が国が世界をリードし、先進国としての責務を果たすチャンスでもあります。

このチャンスを最大限に活かすべく、私達は「柏の葉キャンパス」に「一般社団法人フューチャーデザインセンター(FDC)」を設立します。

公民学が連携するまち「柏の葉キャンパス」

千葉県・柏市に位置する「柏の葉キャンパス」では、既に公・民・学が密に連携した先端的なまちづくりが進められており、2008年3月には、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学により「柏の葉国際キャンパスタウン構想」が策定されました。本構想策定をはじめとして、柏の葉キャンパスの街には、既存の枠組みを超え新たな「先進モデル」を発信するに相応しい環境が整いつつあり、本構想で明確に位置づけられているFDCもまた、この街のオープンでフラットな連携力を活かした創造性溢れる活動を試みていきます。



柏の葉国際キャンパス
タウン構想。(2008.3策定)
Kashiwanoha International Campus
Town Initiative (Drafted March 2008)

「先進モデル」を実現する3つの哲学

FDCでは、前述のような国家的課題を解決する具体的な「先進モデル」を世界に先んじて示すために、

- 一、自由な発想のもとに未来の「ありたい姿」をしっかりと描く構想力を持ち
- 一、散在する最先端の研究や技術を有効に活かしながら、大学・企業・行政・住民が連携して既存の枠組みを超えた新しい組織を組成するためのリーダーシップをとり
- 一、社会システムの変革につながる具体的な「先進モデル」を実現していきます

FDCにおける取り組みが、我が国の優れた研究者・技術者たちにとって、自らの力で社会を変え、世界に先んじた課題解決先進国として我が国をリードしていく勇気を与えるものとなることを、切に願っております。

Japan's National Problems Are Global Problems

At this time our nation is facing a variety of problems, such as environmental and resource problems, food supply problems, health care problems and education problems. In becoming the second largest economy in the world Japan has developed a society of abundance and stability, but has also become one of the first in the world to confront these problems. These are not just national issues for Japan; these are concerns that are shared throughout the world, and will soon be confronting our Asian neighbors, such as India and China as these economies advance. No country has resolved these issues, but in order for mankind to maintain the current social systems it is crucial to find solutions for these problems.

Our nation has experience with pollution problems. Through a combination of higher-awareness and the application of superior technological capabilities we have become a world leader in achieving notable success resolving pollution problems. Japanese know-how and technological ability is highly-regarded throughout the world, it should be possible to take advantage of these skills to solve our national problems. There is a need to make the fullest possible use of this knowledge and technical ability, and to combine it with the best know-how and technology from throughout the world so that Japan can provide a leadership role in bringing [State-of-the-art Models] of solutions to these important problems. At the same time we are working to solve the future problems of the world, this will be a chance for Japan to lead the world and fulfill our responsibility as an advanced nation.

We must take full advantage of this chance; therefore we are establishing the [Future Design Center] (FDC) in Kashiwanoha Campus.

Kashiwanoha Campus - Where People, Government & Science Come Together

Cutting-edge urban development programs with close collaborations among government, academia and the public are already underway at the Kashiwanoha Campus situated in Kashiwa City, Chiba. In March 2008 Chiba Prefecture, Kashiwa City, the University of Tokyo and Chiba University drafted the [Kashiwanoha International Campus Town Initiative.] As part of this concept, the neighborhoods in the Kashiwanoha Campus will be developed to provide a suitable environment to deliver new [Advanced Models] that exceed the conventional framework. FDC is clearly identified in this initiative as the hub of creative activities to take full advantage of the open, multi-disciplinary collaboration opportunities.

3 Keys to Realizing [State-of-the-Art Models]

In order for the FDC to fulfill the function of solving national issues and being a leader in presenting practical, concrete [State-of-the-art Models] to the world there must be;

- Conceptual ability to clearly define the [Desired Form] of the future, based on free thinking
- Acceptance of a leadership role to build new organizations that exceed the conventional frameworks, making use of collaborations among Academia, Business, Government and Citizens while taking full advantage of a wide range of the latest research and technology.
- Continuing efforts to realize practically-applicable [State-of-the-Art Models] of solutions that can lead to reformation of existing social systems

It is my fervent hope that the efforts and initiatives of FDC provide the encouragement and motivation to our nation's top researchers and engineers to change our society through their work and make Japan a leader in showing the world how to solve the important problems of our time.

平成 21 年 7 月 1 日

July 1st, 2009

FDC 提唱者
小宮山 宏

FDC Advocate
Hiroshi KOMIYAMA

(President adviser of the University of Tokyo,
former president of the University of Tokyo)

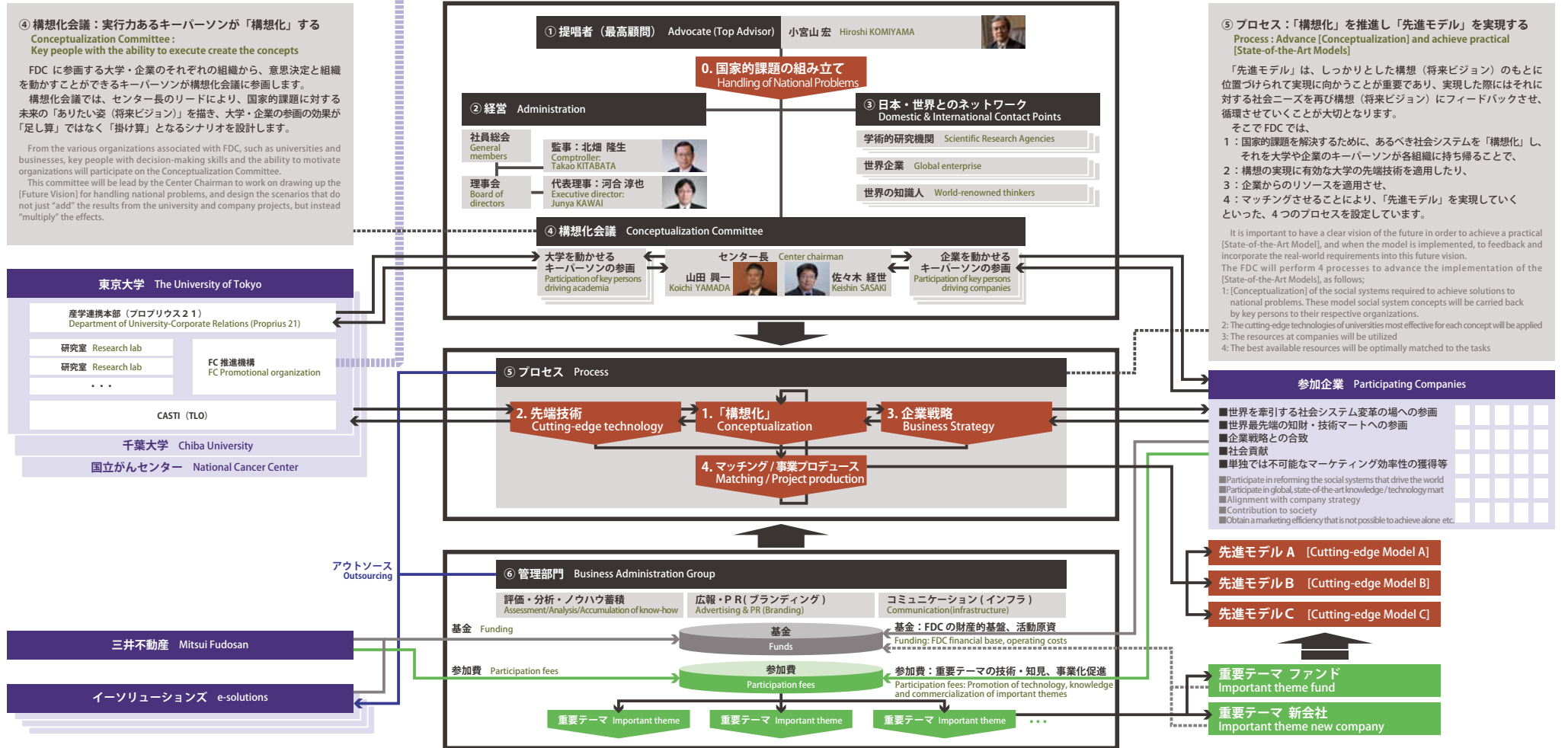


FDC 全体スキーム

FDC SCHEME

「課題解決先進国・日本」を実現するために、FDC では次のようなスキームを構築しています。

In order to achieve [Japan: Advanced Problem-Solving Nation] FDC will be constructed based on the scheme outlined below.



一般社団法人フューチャーデザインセンター^{*}

FUTURE DESIGN CENTER Incorporated Association^{*}

■ FDC 提唱者 (FDC 最高顧問) FDC Advocate (FDC Top Advisor)



小宮山 宏 Hiroshi KOMIYAMA

1972 東京大学工学博士課程修了。カリフォルニア大学デービス校ポスト・ドクトラル・フェロー、東京大学工学部教授、副学長を経て、2005～2009 まで第 28 代東京大学総長を務める。現在は、三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問、東京電力社外監査役などを兼任。

1972 Obtained a Ph.D. in Engineering from the University of Tokyo. After working as a Post-Doctoral Fellow at the University of California, Davis, and as Professor in the Engineering Faculty and Vice-President at the University of Tokyo became the 28th President of the University of Tokyo from 2005 ~ 2009. At present, serving as advisor to the President of The University of Tokyo as well as Chairman of the Mitsubishi Research Institute and Auditor for Tokyo Electric Power Company.

■ FDC センター長 (FDC 理事) FDC Center Chairman (FDC Director)



佐々木 経世 Keishin SASAKI

1984 慶應義塾大学工学部修士課程修了の後、マサチューセッツ工科大学 M B A 取得。ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン株式会社、ソフトバンク株式会社事業企画室長などを経て、1999 イノベーションズ株式会社を設立。現在は、同社代表取締役社長のほか、グリーンアーム株式会社取締役などを兼任。

After earning a Master's Degree in Engineering from Keio University in 1984 continued on to obtain an MBA from the Massachusetts Institute of Technology. After working several years at Booz-Allen Hamilton Japan and as Director of Business Planning for SoftBank Corp. established e-solutions Inc. in 1999. At present, in addition to his role as President & CEO of e-solutions, also serving as Director for other enterprises, including Green ARM Co. Ltd.



山田 興一 Koichi YAMADA

1962 横浜国立大学工学部卒業の後、住友化学工業株式会社、マックスプランク研究所客員研究員、東京大学工学博士取得。東京大学工学系研究科教授、信州大学教授、財団法人地球環境産業技術研究機構理事を経て、2005 東京大学理事 (産学連携、企画、調達担当)。現在は、東京大学総長室顧問。

After graduating from the Yokohama National University Department of Engineering in 1962 held a post at the Sumitomo Chemical Co. Ltd., Visiting Researcher at the Max-Planck Institut, and earned a PhD in Engineering from the University of Tokyo. Continued work as a professor at the Institute of Engineering Innovation at the University of Tokyo, Shinshu University professor, and Director of the Research Institute of Innovative Technology for the Earth (RITE). In 2005 took a post as Director for the University of Tokyo (responsible for university-corporate relations, planning and procurement). Presently serving as advisor to the Office of the President of the University of Tokyo.

■ FDC 監事 FDC Comptroller



北畑 隆生 Takao KITABATA

1972 東京大学法学部卒業の後、通商産業省 (現経済産業省) 入省。大臣官房総務審議官、経済産業省大臣官房長、経済産業政策局長を経て、2006～2008 まで経済産業事務次官を務める。現在は、財団法人世界平和研究所副理事長、社団法人日本ニュービジネス協議会連合会特別顧問などを兼任。

1972 After graduating from the University of Tokyo, Faculty of Law accepted a position at the (former) Ministry of International Trade and Industry (currently, Ministry of Economy, Trade and Industry). Positions include Minister's Secretariat Adjutant of general affairs, Ministry of Economy, Trade and Industry Secretariat Director General, and Economic and Industrial Policy Bureau Chief on the way to serving as Vice Minister of Economy, Trade and Industry from 2006 to 2008. Presently serving as both Deputy Vice President of the Institute for International Policy Studies and as Special Advisor to the Japan New Business Conferences.

■ FDC 代表理事 FDC Executive Director



河合 淳也 Junya KAWAI

1983 東京大学工学部卒業。三井不動産株式会社開発事業本部、住宅事業本部、開発企画部環境創造グループ長を経て、現在は、柏の葉キャンパスシティプロジェクト推進部長。

1983 Graduated the University of Tokyo, Faculty of Engineering. At Mitsui Fudosan Co., Ltd. has held a post at Area Development Department, Residential Development Division, and served as General Manager of Urban Planning Group, Development Consulting Department. Presently Head of the Kashiwanoha Campus Project.

^{*} [フューチャーデザインセンター] 及び [Future Design Center] は三井不動産株式会社の登録商標 (登録第 5223965 号) です。
^{*} [フューチャーデザインセンター] and [Future Design Center] are registered trademarks of Mitsui Fudosan Co., Ltd. (registration number 5223965).

FDC のフィールド「柏の葉キャンパス」

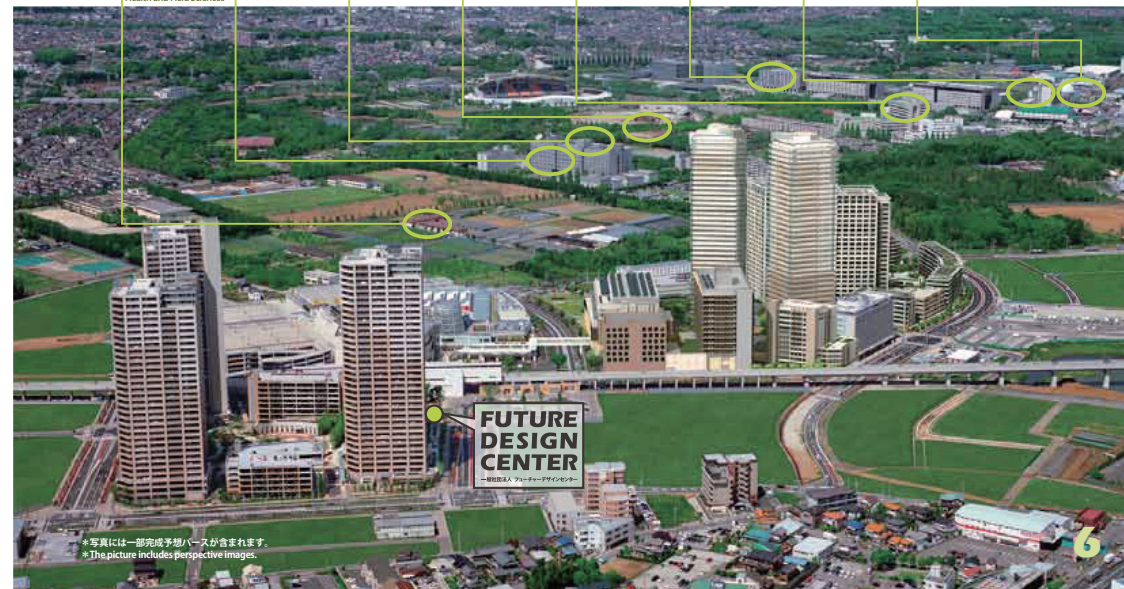
FDC SITE : Kashiwanoha Campus

柏の葉キャンパスは、新たな鉄道「つくばエクスプレス」によって 30 分以内で東京へのアクセスが可能となり、成田国際空港への利便性も高まった、真新しいフィールドです。原生林を含む豊かで広大な緑地の中に、日本トップクラスの国立大学である東京大学や千葉大学のキャンパスが立地し、その他にも国立がんセンターや国立の研究所など高質なポテンシャルが数多く立地しています。柏の葉キャンパスでは、この高いポテンシャルを活かし、公民学が連携することで、これまでのニュータウン開発とは全く異なる最先端のまちづくりを試みています。

The Kashiwanoha Campus presents a revolutionary new development concept, conveniently located within 30 minutes of Tokyo with the completion of the Tsukuba Express railway system. This line also speeds up access to the New Tokyo International Airport at Narita. Located in this realm, cradled in a vast and rich green environment also encompassing virgin forest area, are campuses of the University of Tokyo and Chiba University which are both top-ranked national universities. The area holds great potential, already being utilized by various national research institutes, including the National Cancer Center. The goal is to take full advantage of this potential at the Kashiwanoha Campus with collaboration between the public, government and academia to tide urban development to a completely new level.



千葉大学環境健康フィールド科学センター Chiba University Center for Environment, Health and Field Sciences	警察庁科学警察研究所 National Police Agency Research Institute of Police Science	財務省関税中央分析所 Ministry of Finance Central Customs Laboratory	財務省税関研修所 Ministry of Finance Customs Training Institute	国立がんセンター東病院 National Cancer Center Hospital East	東京大学柏キャンパス University of Tokyo Kashiwa Campus	千葉県東葛テクノプラザ Tokatsu Techno Plaza	東大柏ベンチャープラザ Todai-Kashiwa Venture Plaza
---	---	--	--	---	--	-------------------------------------	--



FUTURE DESIGN CENTER
 三井不動産フューチャーデザインセンター

^{*}写真には一部完成予想ハースが含まれます。
^{*}The picture includes perspective images.